



中外製薬



ロシュ グループ

中外製薬株式会社

2025 年 12 月期第 2 四半期決算 説明会

2025 年 7 月 24 日

イベント概要

[企業名]	中外製薬株式会社		
[企業 ID]	4519		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 12 月期第 2 四半期決算 説明会		
[決算期]	2025 年度 第 2 四半期		
[日程]	2025 年 7 月 24 日		
[ページ数]	52		
[時間]	17:00 – 18:32 (合計：92 分、登壇：40 分、質疑応答：52 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	6 名		
	代表取締役社長 CEO	奥田 修 (以下、奥田)	
	取締役 上席執行役員 CFO	谷口 岩昭 (以下、谷口)	
	上席執行役員 営業統括	日高 伸二 (以下、日高)	

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司 (以下、草野)

営業本部長

高野 淳一 (以下、高野)

広報 IR 部長

宮田 香絵 (以下、宮田)

[アナリスト名]*

大和証券

橋口 和明

JP モルガン証券

若尾 正示

ゴールドマン・サックス証券

植田 晃然

UBS 証券

酒井 文義

モルガン・スタンレーMUFG 証券

村岡 真一郎

シティグループ証券

山口 秀丸

マッコーリーキャピタル証券

トニー・レン

サンフォード・C・バーンスタイン

曾木 美希

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

登壇

宮田：本日はご多用の中、中外製薬、2025年12月期第2四半期決算説明会へご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、本日の進行を担当いたします広報IR部の宮田です。よろしくお願いいたします。

本日は会場講演、およびZoomウェビナーの併用にて実施いたします。本日の会次第は、会場スクリーン、ウェブ画面、およびプレゼンテーション資料3ページ目にお示ししております。こちらの内容に沿ってご説明申し上げます。

本説明会は日本語で開催いたしますが、Zoomウェビナーでは英語での同時通訳音声も配信しております。

ご質問は、プレゼンテーションが全て終了した後、まとめてお受けいたします。QAは30分を想定しておりますので、ご質問を頂戴できればと存じます。なお、プレゼンテーション中は、皆様の音声はミュートとなっておりますので、ご了承ください。

それでは奥田より、2025年第2四半期の総括についてご説明申し上げます。

2025年第2四半期の総括

Financial Overview



- 国内外の製商品売上高がともに増加し、増収増益の決算
- 上期の順調な進捗を踏まえて、通期予想の達成を見込む

Core実績 【億円】	2024年 1-6月 実績	2025年 1-6月 実績	対前同 増減		2025年	
					1-12月 予想	進捗率
売上収益	5,529	5,785	+256	+4.6%	11,900	48.6%
国内製商品売上高	2,172	2,233	+61	+2.8%	4,625	48.3%
海外製商品売上高	2,684	2,881	+197	+7.3%	5,555	51.9%
その他の売上収益	673	670	△3	△0.4%	1,720	39.0%
営業利益	2,628	2,720	+92	+3.5%	5,700	47.7%
営業利益率	47.5%	47.0%	△0.5pts	-	47.9%	-
中間利益	1,895	1,935	+40	+2.1%	4,100	47.2%
EPS (円)	115.15	117.57	+2.42	+2.1%	250.00	47.0%

- 国内売上は、薬価改定及び後発品浸透等の影響を受けたものの、新製品及び主力品が大幅に伸長し、前年比で増加
- 海外売上は、ロシュ向け輸出のアクテムラが大幅に増加し、前年比で増加
- 売上収益は5,785億円（前年同期比4.6%増）、営業利益は2,720億円（同3.5%増）と増収増益

5

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

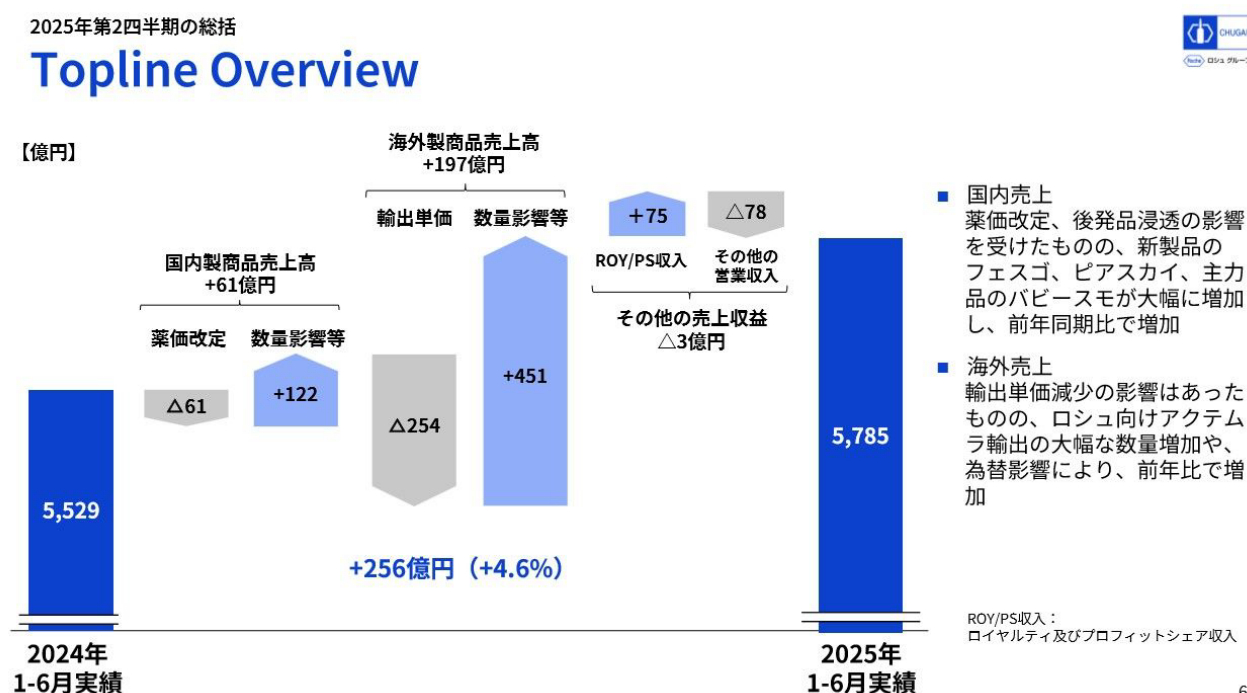


奥田：社長の奥田でございます。私からは、2025 年第 2 四半期の業績を総括いたします。お手元のスライド 5 ページ目をご覧ください。

2025 年第 2 四半期の業績は、国内外の製商品売上高が増加し、増収増益の決算でありました。

対前同で、売上収益はプラス 4.6%、営業利益はプラス 3.5%、中間利益はプラス 2.1%でありました。上期の順調な進捗を踏まえまして、通期予想の達成を見込んでおります。

売上収益の詳細については、次のスライドで説明します。



昨年同期と比較した売上収益は、全体で 256 億円の増収、プラス 4.6%の成長をしました。

内訳を左から順に説明いたします。

国内は、薬価改定や後発品浸透のマイナス影響を受けた一方で、新製品のフェスゴ、ピアスカイ、主力品のバビースモが伸長し、61 億円の増収となりました。

海外は、輸出単価減少の影響があったものの、輸出数量や為替影響等による増加が大きく上回り、197 億円の増収となりました。特にロシュ向けのアクテムラ輸出が大幅に増加しました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

R&D Overview

- 収益貢献の上で重要なプロジェクトであるorforglipronのP3試験成功やNXT007でのPoC確認など、2025年上期におけるマイルストーンは好調に推移
- 機動的かつ戦略的な早期開発加速に向けた中長期視点での経営判断として、早期臨床開発段階にある自社品パイプラインのうち、5つのプロジェクトの自社開発一括中止決定

青字：年内の予定

* 導出先のEli Lilly and Companyが実施

** 海外導出先のGalderma社が実施

*** 導出先のVerastem Oncology社が実施

主な試験の進捗

- ① MINT91 P1開始(固形がん/4月)
- ② GYM329 P2開始(肥満症/5月)
- ③ AUBE00(中分子) P1開始(固形がん/6月)
- ④ ヘムライブラ P3開始(フォン・ウィルブランド病、適応拡大/6月)
- ⑤ 5つの自社品プロジェクトを一括中止する経営判断(7月)

主なリードアウト

- ① NXT007(血友病A/P1/2/2月)：PoC確認
- ② orforglipron*(T2D/P3/4月)：PE達成
- ③ ピアスカイ(aHUS/P3)
- ④ orforglipron*(肥満症/P3)
- ⑤ GYM329(SMA、エリスロイドとの併用/P2)
- ⑥ GYM329(FSHD/P2)

主な承認申請、承認/適応拡大

- ① NEMLUVIO***承認(アトピー性皮膚炎、結節性痒疹/2月/欧州)
- ② AVMAPKI™ ***承認(KRAS変異陽性再発LGSOC/5月/米国)
- ③ ピアスカイ承認(PNH/5月/台湾)
- ④ アレセンサ申請(ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の固形がん/6月/日本)
- ⑤ orforglipron*申請(肥満症/グローバル)

■ 主な学会発表の状況

開発品	試験名	学会名
NXT007	NXTAGE試験[P1/2] (血友病A)	国際血栓止血学会 (ISTH 2025)
orforglipron*	ACHIEVE-1試験[P3] (2型糖尿病)	米国糖尿病学会 (ADA 2025)

7

続いて R&D についてご説明いたします。

こちらには自社創製品に関する重要な今年の R&D マイルストーン達成状況を示しています。

まず orforglipron につきましては、導出先のイーライリリー社が本年 4 月に 2 型糖尿病に対するグローバルフェーズ 3 試験の成功を発表、6 月に米国糖尿病学会において、その試験結果を発表いたしました。これに伴いまして、糖尿病、肥満症での開発成功確率が上昇したと捉えております。

そして NXT007 につきましては、プルーフ・オブ・コンセプト (PoC) を確認いたしました。このデータをもとにして、2026 年からグローバルのフェーズ 3 試験の開始を決定するなど、開発が進捗しております。

また新規の自社品プロジェクトとして、MINT91 や中分子プロジェクトであります AUBE00 がフェーズ 1 試験を開始いたしました。

そして機動的かつ戦略的な早期開発加速に向けた中長期視点での経営判断として、早期臨床開発段階にあります自社品パイプラインのうち、五つのプロジェクトの自社開発一括中止を決定いたしました。次のスライドで詳しく説明いたします。

サポート

日本

050-5212-7790

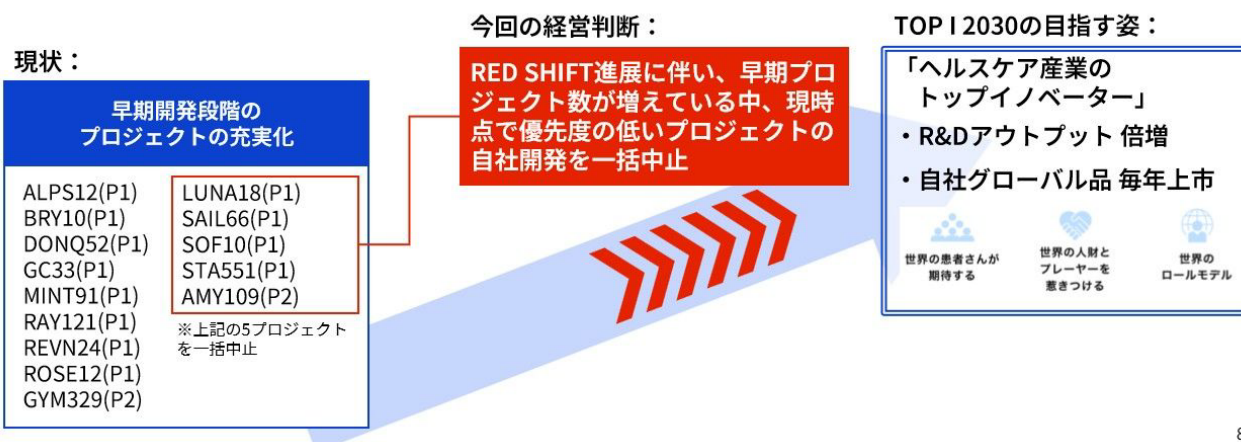
フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

機動的かつ戦略的なリソース配分により、早期開発全体を加速

- TOP I 2030開始以降、RED SHIFTにより、早期開発段階のプロジェクトが充実
- 今回、これまでに得られているデータとポートフォリオの状況を勘案の上、優先順位付けを行い、一部の自社プロジェクトの自社開発を一括中止する経営判断を実施。優先度の高いプロジェクトへリソースを集中することで、TOP I 2030の目標達成確度を高めていく



8

2021年にTOP I 2030を開始して以降、RED SHIFT戦略によって、新規プロジェクトの数を増加させてきました。その結果、過去4年間で9個の自社創製品のプロジェクトが臨床入りするなど、早期プロジェクトが充実しました。一方で、プロジェクトによっては開発に時間を要しているものもありました。

そこで、早期開発段階にあります自社品パイプラインを対象として、これまでに得られているデータとポートフォリオ全体の状況を勘案の上、優先順位付けを行った結果、LUNA18、SAIL66、SOF10、STA551、AMY109の五つのプロジェクトの自社開発一括中止を決定いたしました。

今回の判断によって、優先度の高いプロジェクトにリソースを集中できるようになり、TOP I 2030で掲げる目標達成の確度を高めることができます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

充実した中分子ポートフォリオ

- LUNA18：経口吸収性及び臨床でのRASシグナル経路*の阻害活性が確認された。一方、RAS阻害薬における競争優位性の観点からAUBE00の開発注力を決定
- その他、がん以外の適応となるプロジェクトが新規に前臨床開発段階に移行するなど、中分子医薬品全体の研究開発は順調

2025年7月24日現在



9

LUNA18 と中分子のプロジェクトについてご説明いたします。

LUNA18 は、中分子プラットフォームにとって重要なコンセプトである経口吸収性を確認いたしました。また LUNA18 が細胞内に到達していることが、腫瘍組織のバイオマーカー解析、および有害事象のプロファイルから示唆されました。

一方で、pan-RAS GDP 阻害剤の LUNA18 が臨床において、競合品と比較して、十分な治療域が確保できない懸念が出てまいりました。本剤の臨床試験で蓄積したデータや競合他社の pan-RAS GTP 阻害剤の有望な臨床試験成績を総合的に勘案し、LUNA18 よりも競争優位性の示せる可能性の高い KRAS に選択的な阻害剤であります AUBE00 の開発に注力する方針に切り替えることいたしました。AUBE00 は、固形がんを対象として 6 月にフェーズ 1 試験を開始しております。詳細につきましては、後ほど草野から説明を差し上げます。

中分子ポートフォリオ全体といたしましては、AUBE00 のほかにも、ここにありますように、急性心不全を対象とする、がん以外の適応となるプロジェクトが新規に前臨床開発段階に移行するなどの進展が見られています。アンメットメディカルニーズに応えるため、今後も第 3 のモダリティである中分子医薬の開発に注力してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

新たな研究棟「UKX」の建設決定（浮間事業所）

■ 低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能の強化

- ・ 中外独自の技術を適用した付加価値の高いプロジェクトが増加している中、開発プロジェクトの速やかな臨床試験入りや開発加速に向けて医薬品の製法開発機能の強化・拡充を目指す

■ 環境配慮型の設備を導入

- ・ 中期環境目標2030におけるフロン対応やCO₂排出量削減に向けた取り組みも実施



【UKX研究棟 新設工事の概要】

1. 総投資額：800億円
2. 着工：2026年5月
3. 竣工：2028年8月
4. 建築面積：5,047m²
5. 延床面積：27,136m²

10

最後に、新規投資についてご説明を申し上げます。

中外独自の技術を適用した医薬品の製法開発機能を強化するため、浮間事業所に新たな研究棟UKXを建設することを決定いたしました。投資総額は800億円になります。フロン削減対応やCO₂排出削減など、環境に配慮した設備を導入いたします。

創薬研究から連続的に生み出される有望な医薬品候補物質を臨床開発に進めるためには、医薬品としての製造方法を速やかに確立することが必要不可欠です。今回の新研究棟の建設により、TOP I 2030の目標であります、R&Dアウトプット倍増に向けての基盤がより強固になるということを確認しております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

まとめ

- 国内外の製商品売上高がともに増加し、増収増益の決算。上期の順調な進捗を踏まえて、通期予想の達成を見込む
- 収益貢献の上で重要なプロジェクトであるorforglipronのP3試験成功やNXT007でのPoC確認など、2025年上期におけるマイルストーンは好調に推移
- 機動的かつ戦略的な早期開発加速に向けた中長期視点での経営判断として、早期臨床開発段階にある自社品パイプラインのうち、5つのプロジェクトの自社開発一括中止決定
- LUNA18において、経口吸収性及び臨床でのRASシグナル経路の阻害活性を確認。一方、RAS阻害薬における競争優位性の観点からAUBE00への開発注力を決定。その他、がん以外の適応となるプロジェクトが新規に前臨床開発段階に移行するなど、中分子医薬品全体の研究開発は順調

11

こちらは私からの説明のまとめでございます。私からの説明は以上となります。

宮田：続きまして、草野より、開発パイプラインの状況についてご説明申し上げます。

草野：はい、プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長の草野でございます。私からは開発パイプラインの状況についてご説明申し上げます。

開発パイプラインの状況

2Qトピックス (1/2)

2025年7月24日現在

発売	エブリスディ	剤形追加（錠剤）	2025年5月（日本）
承認	AVMAPKI™*	全身療法による治療歴があるKRAS変異陽性再発低悪性度漿液性卵巣がん（FAK阻害剤FAKZYNJA™（一般名：defactinib、錠剤）との併用療法）	2025年5月（米国）
	エレビジス	デュシェンヌ型筋ジストロフィー（歩行可能）（遺伝子治療用製品）	2025年5月（日本）
	ピアスカイ	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2025年5月（台湾）
	バビースモ	網膜色素線条（適応拡大）	2025年5月（日本）
申請	ルンスミオ+ボライビー	再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫（適応拡大）	2025年5月（日本）
	テセントリク	切除不能な胸腺がん（適応拡大）	2025年5月（日本）
	アレセンサ	ALK融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の固形がん（適応拡大）	2025年6月（日本）
試験開始	GYM329	肥満症	第II相（2025年5月）
	バビースモ	非増殖糖尿病網膜症	国内第III相（2025年5月）
	ヘムライブラ	フォン・ヴィレブランド病	第III相（2025年6月）
	AUBE00	固形がん（pan-KRAS阻害剤 / 中分子 / 経口）	第I相（2025年6月）
	RG6114/inavolisib	PIK3CA遺伝子変異陽性乳がん	国内第I/II相（2025年7月）

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売） *導出先のVerastem Oncology社が実施

13

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

お手元のスライド 13 ページをご覧ください。第 2 四半期のトピックスになります。

発売、承認につきましては、エブリスディの錠剤発売を除き、既に発表済みの内容となっております。

承認は、自社創製品で二つ、ロシュ品で二つでございます。

自社創製品については、Verastem Oncology 社に導出したしました AVMAPKI は、KRAS 変異陽性の再発低悪性度漿液性卵巣がんに対し、米国で迅速承認制度のもとで承認されました。

またロシュ品については、希少で難治性のデュシェンヌ型筋ジストロフィーに対する遺伝子治療病製品であるエレビジスが、3 歳以上 8 歳未満の歩行可能な方に対する承認を取得いたしました。なお、エレビジスが投与された歩行不能な 2 例の死亡例と、サレプタ社が実施している同様のベクターを用いた別の開発品で認められた 1 例の死亡例に関する安全性情報を受けまして、FDA がサレプタ社に対し、エレビジスの出荷停止を推奨いたしました。

日本におきましても、患者さんの安全確保を第一優先と考え、安全性情報の評価が終了するまで、エレビジスの出荷は実施いたしません。引き続き、規制当局に情報を共有し、協議してまいる所存でございます。

続きまして、バビースモが、網膜色素線条を対象に、日本で初めて承認されてございます。

申請につきましては、記載の通り、自社創製品で一つ、ロシュ品で二つでございます。

ルンスミオについては、再発または難治性のアグレッシブ B 細胞性非ホジキンリンパ腫に対するポライビーとの併用薬で適応拡大の申請を行いました。

その他はリリース済みの内容となっております。

試験開始は、自社創製品三つとロシュ品二つでございます。

自社創製品では、GYM329 が、肥満症を対象にチルゼパチドとの併用で、フェーズ 2 試験を開始いたしました。

ヘムライブラは、フォン・ヴィレブランド病を対象に、フェーズ 3 試験を開始いたしました。

自社創製品である中分子の AUBE00 が、固形がんを対象にフェーズ 1 試験を開始いたしました。後ほど詳細について説明させていただきます。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ロシュ品については、バビースモが、非増殖糖尿病網膜症を対象に、国内フェーズ3試験を開始いたしました。

また、inavolisib が *PIK3CA* 遺伝子変異陽性乳がんを対象に、国内フェーズ1/2試験を開始いたしました。

開発パイプラインの状況

2Qトピックス (2/2)



2025年7月24日現在

Readout	テセントリク+アバスチン	第III相 TALENTACE試験（切除不能な肝細胞がん）：主要評価項目のうち1つ（TACE PFS）を達成	2025年5月
	AVMAPKI ^{TM*}	第II相 RAMP 205試験（膵管腺がん）：安全性および有効性に関するポジティブな結果	2025年5月
契約締結	共同研究 / ライセンス	Gero社との加齢関連疾患に対する新規治療法の開発	2025年7月
パイプライン除外	チラゴルマブ	食道がん（SKYSCRAPER-07試験）：開発中止	
	早期自社品5品目	LUNA18、SAIL66、SOF10、STA551、AMY109：自社開発中止	
学会発表	AVMAPKI ^{TM*}	第II相 RAMP 205試験（膵管腺がん（1次治療）、標準治療との併用データ）	2025年6月
	NEMLUVIO ^{®***}	第III相 ARCADIA長期継続試験（アトピー性皮膚炎、2年データ）	2025年6月
	NEMLUVIO ^{®***}	第III相 OLYMPIA長期継続試験（結節性痒疹、2年データ）	2025年6月
	NXT007	第I/II相 NXTAGE試験（血友病A）	2025年6月
	orforglipron ^{***}	第III相 ACHIEVE-1試験（2型糖尿病）	2025年6月
	ルンスミオ+ボライビー	第III相 SUNMO試験（再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫）	2025年6月
オープンイノベーション	Chugai Venture Fund, LLC 投資実施（累計6社）	・ Stylus Medicine ・ US拠点の企業2社	2025年4月 2025年5月、7月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

*導出先のVerastem Oncology社が実施 **海外導出先のGalderma社が実施 ***導出先のEli Lilly and Companyが実施
TACE: 肝動脈化学塞栓療法、PFS: 無増悪生存期間

14

次にリードアウトでございます。

AVMAPKI については、膵管腺がんの1次治療に対し、標準治療への上乗せ効果を確認する試験において、全奏功率83%と有効性シグナルが見られ、来年2026年からフェーズ3開始に向けて検討が進められてございます。

次に、契約締結については、加齢関連疾患に対する独自のAIを活用した標的探索プラットフォームを持つGero社と共同研究およびライセンス契約を締結いたしました。当社の抗体エンジニアリング技術を掛け合わせて、加齢関連疾患の新規抗体医薬品候補の創薬を目指してまいります。

パイプラインの除外についてです。

先ほどCEOの奥田からも説明があったように、早期自社品5品目について、これまでに得られているデータとポートフォリオの状況を勘案し、自社開発を中止する経営判断をいたしました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また、ロシュ品では、チラゴルマブについて、食道がんを対象にテセントリクとの併用で実施中のフェーズ3試験に関して、これまでの試験結果を鑑み、開発を中止いたしました。

学会発表については、自社創製品で五つ、ロシュ品で一つでございます。

先ほどお伝えしました AVMAPKI のほか、Galderma 社に導出してございます NEMLUVIO について、アトピー性皮膚炎および結節性痒疹ともに、長期継続した試験において良好な2年データを発表してございます。

orforglipron については、食事療法および運動療法のみでは血糖コントロールが不十分な成人2型糖尿病患者を対象に、プラセボと比較し、有効性と安全性を評価したフェーズ3試験、ACHIEVE-1試験におけるポジティブな詳細結果が、米国糖尿病学会において発表されてございます。また本結果は、New England Journal of Medicine にも掲載されてございます。

5月に申請いたしましたルンスミオについては、再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫を対象としたボライビーとの併用試験について、悪性リンパ腫国際会議において、口演発表をさせていただきました。

NXT007 については、追って詳細についてご説明申し上げます。

また、オープンイノベーションについては、昨年ボストンで本格稼働をいたしました、Chugai Venture Fund において、この3カ月間に追加で3社の投資を実施してございます。設立後、合計6社への投資が完了してございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

2025年 主要なR&Dイベント

2025年7月24日現在

	開発品（製品）名	予定適応症 / 試験名	進捗状況
承認 予定品目	エレビジス	デュシェンヌ型筋ジストロフィー（歩行可能）	承認
	バビースモ	網膜色素線条	承認
P3/ピボタル試験 Readout	ピアスカイ	COMMUTE-a試験*：非典型型溶血性尿毒症症候群（aHUS）	
	ルンスミオ+ボライビー	SUNMO試験： 再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫	主要評価項目達成
	ルンスミオ	CELESTIMO試験：濾胞性リンパ腫（二次治療）	
	ギレドストラント酒石酸塩	persevERA試験：ホルモン陽性乳がん（一次治療） evERA試験：ホルモン陽性乳がん（一次治療～三次治療）	
	バミキバルト	SANDCAT試験：非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫（UME）	
	ガザイバ	INShore試験：小児突発性ネフローゼ症候群	
	GYM329+エブリスディ	MANATEE試験：脊髄性筋萎縮症（SMA）	
P2試験 Readout	GYM329	MANOEUVRE試験：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	
	NXT007	血友病A	PoC確認／ P3移行を決定**
P1/2試験 Readout	trontinemab	Brainshuttle™ AD試験：アルツハイマー病	P3移行を決定
試験開始	GYM329	肥満症（P2試験）	試験開始

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

下線：2025年4月24日からの変更点

*成人および青年患者を対象 **3本のP3試験を2026年に開始予定（第VIII因子製剤との比較、ヘムライブラとの比較、小児を対象）

15

2025年の主要なR&Dイベントでございます。下線部分は、今回の決算からの変更になってございます。

先ほどお伝えさせていただきましたが、エレビジス、バビースモについて、承認を取得してございます。

試験開始については、先ほどお伝えしましたように、GYM329が、肥満症に対してフェーズ2試験を開始いたしました。

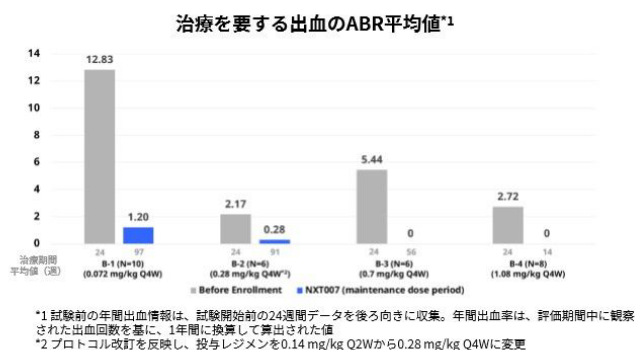
サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

NXT007：インヒビター非保有重症血友病A対象P1/2試験

- 血友病Aの方々を対象としたNXT007の初めての臨床データ。ヘムライブラ未治療の方々が対象
- 高用量コホート（B-3、B-4）では正常レベルと同等の血液凝固第VIII因子活性が期待できる血中濃度に達し、治療を要する出血は認められなかった。現時点までのデータにおいてはNXT007の忍容性は良好
- 2026年よりヘムライブラとの直接比較を含む3つの第III相試験を開始予定。有効性に加えて、ADA（抗薬物抗体）を含む安全性について、更なる評価を実施

有効性（ABR：Annualized Bleeding Rate（年間出血率））



安全性

- 用量依存性の有害事象の増加は認められず、NXT007に関連する重篤な有害事象、および血栓塞栓症イベントは認められなかった
- ADAは30名中22名で認められ、データカットオフ前の最終観察時点でADA陽性であった方は10名。PKに影響を与えるADAの発現が2名で認められたが、エミシズマブと交差反応するADAは認められなかった

	B-1 (N=10)	B-2 (N=6)	B-3 (N=6)	B-4 (N=8)	Total (N=30)
ADA post-baseline incidence ^{*3}	7	6	4	5	22
ADA impacting PK	1	0	1	0	2
ADA cross-reacting with emicizumab	0	0	0	0	0

*3 ベースラインにおいてADA陽性の参加者はいなかった

16

続いて、NXT007 のフェーズ 1/2 試験の結果でございます。

NXT007 は、次世代の血友病 A 治療薬として開発中で、初めて血友病 A の方々を対象とした有効性、安全性のデータを今年 6 月の ISTH、国際血栓止血学会で発表いたしました。

まず有効性です。左側の図は、ヘムライブラ未治療の血友病 A の方々を対象にした年間出血率を示してございます。全てのコホートで、投与前と比較して、年間出血率は減少してございます。特に高用量コホート B-3、B-4 では、正常レベルと同等の血液凝固第 VIII 因子活性が期待できる血中濃度に達しており、治療を要する出血は認められませんでした。

続いて安全性です。NXT007 の忍容性は良好で、NXT007 に関連する重篤な有害事象、および血栓塞栓症イベントは認められませんでした。また、抗薬物抗体 ADA は、30 例中 22 例で認められたものの、多くの ADA は PK に影響しませんでした。

なお、データカットオフ前の最終観察時点では 10 例と減少していることからわかる通り、半分は一過性の ADA でございました。PK に影響を与える ADA の発現が 2 例認められましたが、ヘムライブラと交差反応する ADA は確認されませんでした。

2026 年に開始予定の三つのフェーズ 3 試験では、有効性に加えまして、ADA を含む安全性について、更なる評価を実施してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

AUBE00 (pan-KRAS阻害剤)

- 中分子技術を適用した2つ目の臨床入りプロジェクト。固形がんに対してP1試験を開始
- KRAS選択的な阻害活性に基づく広い治療域により、pan-RAS阻害剤であるLUNA18を上回る高い薬効を期待

■ AUBE00の特徴

- ・ KRAS-GDPへの結合に基づく選択的な阻害活性により、抗腫瘍効果と良好な安全性プロファイルを期待
- ・ KRASの幅広い遺伝子変異を標的とすることが期待される薬剤。このような薬剤は承認されておらず、Unmet medical needsが高い

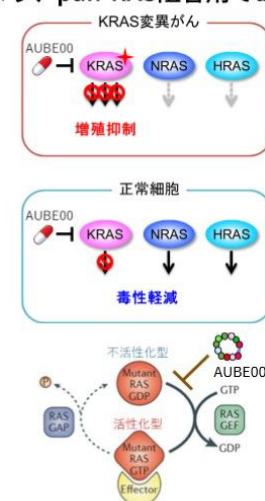
■ KRASとは

- ・ 最も頻度が高く遺伝子異常が認められるがん遺伝子の1つで、がんの発生や悪性化に関与

■ 中分子技術の特徴

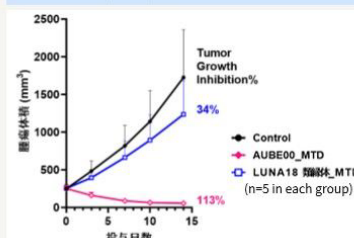
- ・ 非天然アミノ酸を含む環状ペプチド
- ・ 標的タンパクの広い界面と相互作用することで結合親和力の向上が期待される
- ・ 高い膜透過性と代謝安定性を持ち、経口投与が期待できる

GTP: guanosine triphosphate, GDP: guanosine diphosphate, GAP: GTPase activating protein, GEF: guanine nucleotide exchange factor



ヒトKRAS変異陽性非小細胞肺癌移植マウスモデルにおける抗腫瘍効果 (出典: 社内データ)

LUNA18類似体の非感受性モデルに対して、AUBE00は強い腫瘍退縮効果を示す



Tumor growth inhibition (%): コントロール群の腫瘍増大に対する腫瘍抑制効果を表す。100%は腫瘍の成長が完全に止まった状態、100%超は腫瘍が縮小したことを意味する

MTD (Maximal tolerable dose): 最大耐用量

出典: Nat Rev Drug Discov. 2014;13:828-51, modified

17

続いて、自社創製品の pan-KRAS 阻害剤である AUBE00 をご紹介いたします。こちらは臨床入りした二つ目の中分子プロジェクトでございます。

先ほど奥田より説明がありましたが、当社は RAS 遺伝子が関与するがんに対して、pan-RAS 阻害剤の LUNA18 から、AUBE00 に舵を切ることになりました。その背景も含めてご説明申し上げます。

RAS 遺伝子には、KRAS、NRAS、HRAS という 3 種類の RAS 遺伝子がありますが、KRAS は最も頻度が高く、遺伝子異常が認められるがん遺伝子の一つでございます。

KRAS 変異がんは、活性型変異を持つ KRAS に強く依存して、生存・増殖しているため、KRAS 阻害によるより抗腫瘍効果が期待できます。一方で、正常細胞では、KRAS のみならず、NRAS や HRAS からのシグナルも利用して、生存・増殖してまいります。

そこで AUBE00 は、KRAS 選択的、かつ KRAS の幅広い遺伝子変異を標的とするように設計いたしました。このため、AUBE00 が KRAS を阻害しても、NRAS や HRAS が代わりに働くことで、正常細胞への影響は最小限に抑えることができます。

この結果、AUBE00 は広い治療域が期待でき、NRAS や HRAS を含む全ての RAS を阻害する LUNA18 を上回る高い薬効が期待されます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

なお、右側の非臨床データでは、LUNA18 類縁体では十分な薬効が得られない非小細胞肺癌を用いた xenograft モデルにおいて、AUBE00 では、腫瘍退縮を誘導し、強い有効性を示してございます。

以上、当社はアンメットメディカルニーズの高い KRAS 変異がんの克服に向けて、1 日も早く革新的な医薬品を患者さんにお届けできるように取り組んでまいります。

開発パイプラインの状況

ROSE12: 抗CTLA-4 スイッチ抗体

■ 広い治療安全域を有することを期待し、固形がんを対象にP1試験実施中



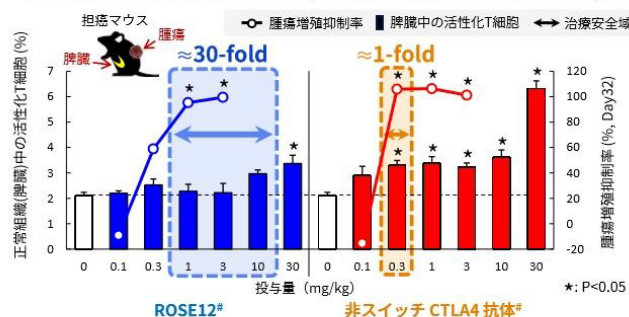
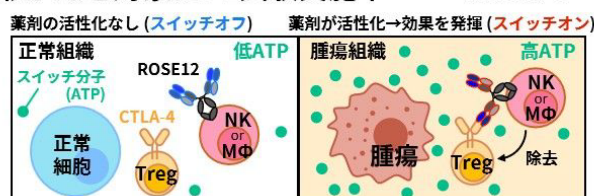
NK: ナチュラルキラー
MΦ: マクロファージ

ROSE12 について

- 免疫抑制性の制御性T細胞（Treg）を腫瘍選択的に除去し活性化T細胞を増やすことで、**全身での副作用を抑えて抗腫瘍効果を発揮する**
- 正常組織中の活性化T細胞を増やさずに抗腫瘍効果を示すことを、非臨床試験にて確認済み
- 局所進行又は転移性固形癌患者を対象とした ROSE12単剤及びテセントリク併用投与でのP1試験を日米で実施中（NCT05907980）

CTLA-4 について

- 免疫抑制能の強いTregに高発現する膜たんぱく質
- ROSE12はスイッチ分子（細胞外ATP）存在下で、CTLA-4を介してTregと結合する



出典：The Society for Immunotherapy of Cancer 2024 ポスター発表資料から改編

18

次に、自社創製品の ROSE12 です。作用機序が公開可能となりましたので、この機会にご説明申し上げます。

ROSE12 は、当社独自のスイッチ抗体技術を適用した抗 CTLA-4 抗体です。CTLA-4 は、免疫抑制能の強い制御性 T 細胞に高発現する膜タンパク質の一つです。がんにおける重要な治療標的として知られていますが、この分子を標的とした薬剤では、全身性の副作用のコントロールが課題でございます。

ROSE12 は、スイッチ技術によって、腫瘍選択的に作用することで、全身での副作用を抑えて、抗腫瘍効果を発揮することが期待されています。

マウスを用いた非臨床試験において、非スイッチの抗 CTLA-4 抗体では、有効用量と安全用量が同程度だったのに対し、スイッチ抗体では、約 30 倍の差を認め、広い治療安全域が確認されています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



現在実施中のフェーズ1試験では、ROSE12単剤、およびテセントリクとの併用で評価を進めており、スイッチ抗体技術によって高い薬効を示しながら、良好な安全性プロファイルが得られることを期待しています。

開発パイプラインの状況

各モダリティのポートフォリオ



2025年7月24日現在



ブルー：ロシュと共同開発 19

プロジェクトの一括中止を受けて、改めて各モダリティのポートフォリオの状況を示しています。

引き続き、豊富な自社創製プロジェクトを保有しています。特に第3の柱として注力する中分子医薬では、二つのプロジェクトが前臨床開発の段階にあり、ほかに25のプロジェクトが創薬研究の段階にあります。順調に進捗していると認識しています。

参考資料としまして、低分子医薬、中分子医薬、抗体医薬、細胞・遺伝子医薬について、詳細な状況を示したスライドを後ろのほうにつけておりますので、併せてご確認いただければと思います。

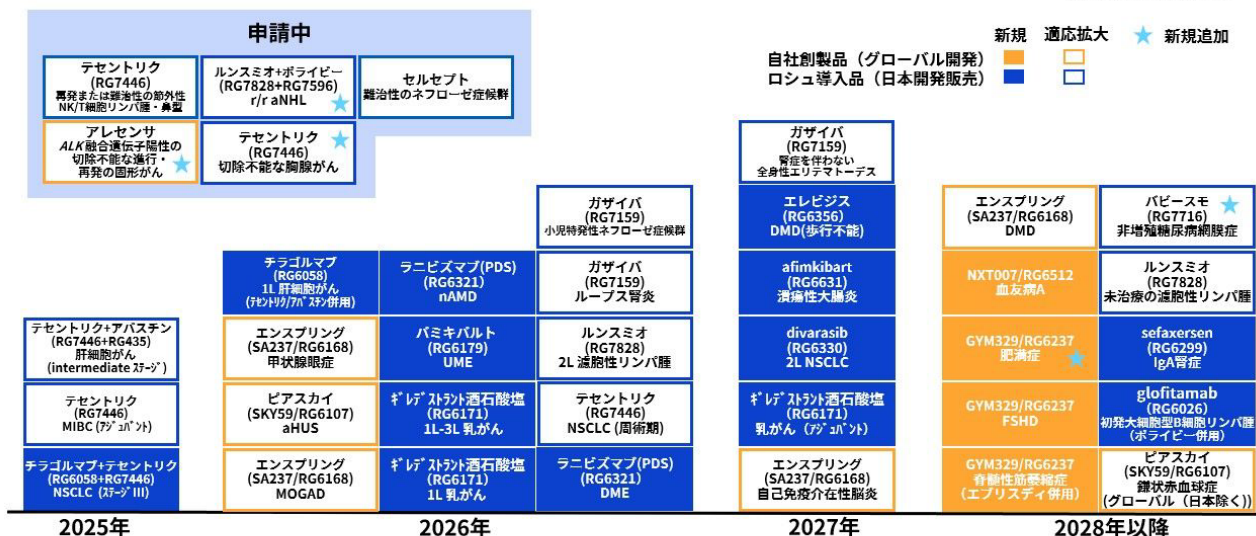
サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



今後の申請予定 (P2以降開発品・製品)

2025年7月24日現在



20

最後に、今後の申請予定でございます。

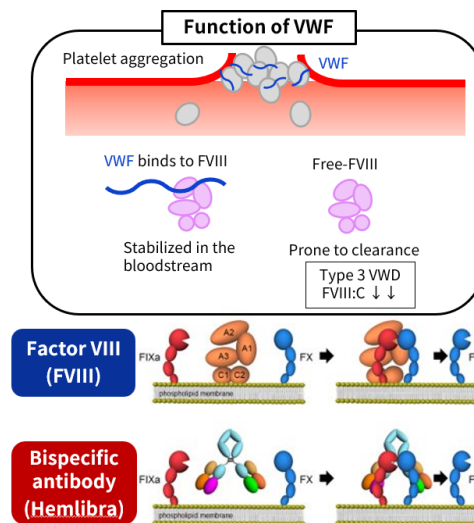
水色の星がついているものが、新規に追加したプロジェクトでございます。

この後に続くスライドは、参考資料として添付してございます。

フォン・ヴィレブランド病 (VWD)のGlobal Phase III開始

■ ヘムライブラはMoAからType 3 VWD患者において出血症状の改善が期待される

- フォン・ヴィレブランド因子 (VWF)は血管が損傷した際に損傷部位に血小板を補足・粘着させる効果とともに、血液凝固第VIII因子 (FVIII)と結合してFVIIIの安定化や損傷部位への運搬にも関わり、止血において重要な役割を担うタンパク質である
- VWDは、VWFの減少 (Type 1)・欠損 (Type 3)ないしは質的異常 (Type 2)により過度の皮膚粘膜出血 (鼻血、内出血、口腔内出血)や過多月経が認められる常染色体遺伝の出血性疾患である
- VWFが欠損しているType 3 VWDではFVIIIの活性が低下し、重症例においては関節内/筋肉内出血が認められることから、ヘムライブラの活性化FVIII機能代替活性により出血症状改善が期待される
 - ✓ VWF含有製剤による治療は静脈注射、短半減期、インヒビター発現リスク、などの課題を抱えている



23

今回ヘムライブラでフェーズ 3 試験を開始したフォン・ヴィレブランド病について、appendix と

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

してご説明しておりますので、適宜ご参照いただければと思います。私からの発表は以上でございます。

2025年第2四半期(中間期)連結決算(Core)概要

損益 1-6月 前年同期比



【億円】	2024年	2025年	増減	
売上収益	5,529	5,785	+ 256	+ 4.6%
製商品売上高	4,855	5,114	+ 259	+ 5.3%
国内	2,172	2,233	+ 61	+ 2.8%
海外	2,684	2,881	+ 197	+ 7.3%
その他の売上収益	673	670	△ 3	△ 0.4%
売上原価	△ 1,602	△ 1,752	△ 150	+ 9.4%
製商品原価率	33.0%	34.3%	+1.3pts	-
研究開発費	△ 840	△ 863	△ 23	+ 2.7%
販売費及び一般管理費	△ 466	△ 454	+ 12	△ 2.6%
その他の営業収益（費用）	8	4	△ 4	△ 50.0%
営業利益	2,628	2,720	+ 92	+ 3.5%
営業利益率	47.5%	47.0%	△ 0.5pts	-
金融収支等	5	△ 15	△ 20	-
法人所得税	△ 738	△ 770	△ 32	+ 4.3%
中間利益	1,895	1,935	+ 40	+ 2.1%
EPS（円）	115.15	117.57	+ 2.42	+ 2.1%

- 国内
薬価改定や後発品浸透による減少影響を受けたものの、新製品や主力品が大幅な伸長により増加
- 海外
アクテムラの大幅な伸長により増加
- その他の売上収益
ヘムライブラに関する収入が増加した一方、一時金収入が減少
- 売上原価
製品別売上構成比の変化等により、製商品原価率が上昇
- 研究開発費
創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加
- 販売費及び一般管理費
諸経費等が減少

32

谷口：CFOの谷口でございます。それでは、これより2025年度第2四半期累計の連結決算の概要についてお話をさせていただきます。

まず最初に、25年度第2四半期の売上収益は5,785億円と、前年同期比256億円、4.6%の増収となりました。また営業利益は2,720億円と、こちらも92億円、3.5%プラス、増益となりましたことをお伝えさせていただきます。

それでは、売上収益の内訳からご説明させていただきます。

売上収益のうち、まず製商品売上、こちらについては5,114億円と、前年同期比259億円、5.3%の増収となりました。

売上を地域別に見ますと、まず国内は2,233億円と、前年同期比61億円、2.8%のプラスでございました。新製品や主力品が好調に推移し、薬価改定の影響と後発品の浸透といったマイナスの影響を吸収して余りあった形となっております。

海外は2,881億円と、前年同期比197億円、7.3%の成長となっております。第2四半期単体で見ますと、アクテムラの輸出が極めて好調であったと言えます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



その他の売上収益は 670 億円と、前年同期比ほぼ横ばいの数字でございました。ヘムライブラのロイヤリティ収入は増加をしたんですが、昨年との比較でいきますと、マイルストーンペイメント、一時金収入、こういったものが減少したことが去年とそれほど変わらなかったということの背景でございます。

次に、費用項目に移ります。

売上原価は 1,752 億円と、前年同期比 150 億円、9.4%の増加となりました。こちら製商品売上が増加したことに伴いまして、製品の原価も一定程度比例する形で増加をしております。

なお、製商品原価率は、前年同期と比べますと 1.3 ポイント増加し、34.3%に今なっております。背景としては、比較的原価の高いアクテムラの構成比が、第 2 四半期累計で、昨年より高まったことが背景にあると理解をしております。

販管費については、物価高や人件費上昇の影響を受ける中でも効率化の努力を進め、前年同期比で 12 億円のこちらは低下、マイナスとなっております。

研究開発費については、こちらは創薬研究および早期開発プロジェクトは順調に進捗していることを反映し、前年同期比 23 億円の増加となっております。

その他の営業収益、これは資産の譲渡益・譲渡損等ですね、これは前年同期比 4 億円減少しました。

これらの結果、コア営業利益、こちら前年同期から 92 億円増加の 2,720 億円となり、営業利益率は 47%ちょうどとなっております。

税引後の当期利益、こちら 1,935 億円と昨年同期比で 40 億円、2.1%のこれも増益となっております。

サポート

日本

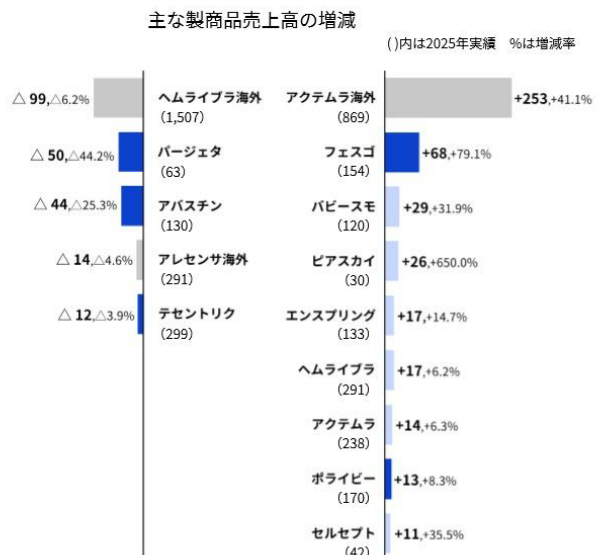
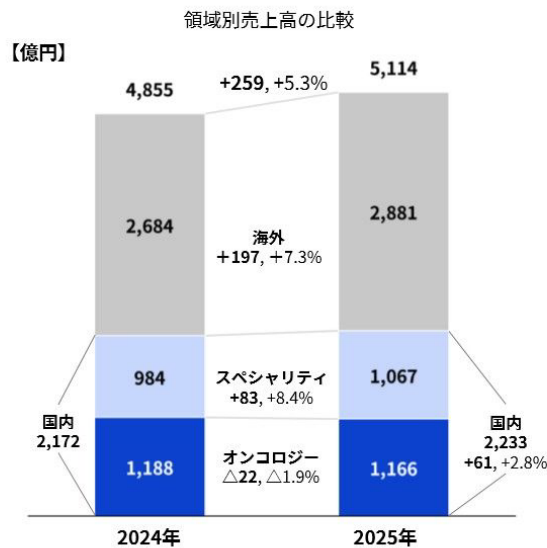
050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

製商品売上高 1-6月 前年同期比



33

続きまして、製商品売上の増減内訳をお話したいと思います。

三つあるうち、まず最初、国内のオンコロジー領域でございます。こちら 1,166 億円と、前年同期比 22 億円、1.9%の減収となりました。

後発品の影響を受けて、アバスチンがこれまで同様、減少しております。一方で、新製品フェスゴの売上が、置き換え対象となるパージェタの売上減少を上回る形で順調に増加をしております。

続きまして、スペシャルティ領域です。こちら 1,067 億円と、前年同期比 83 億円増加のプラス 8.4%となりました。

全般的に薬価改定影響もありましたが、主力品のヘムライブラ、アクテムラ、エンスプリング、バビースモに加え、新製品ピアスカイ、こちらも順調に売上を伸ばしております。

最後三つ目、海外の製商品売上、こちら先ほど申し上げました通り、アクテムラが増加し、全体で 2,881 億円と、前年同期比プラス 197 億円、7.3%の成長となりました。

サポート

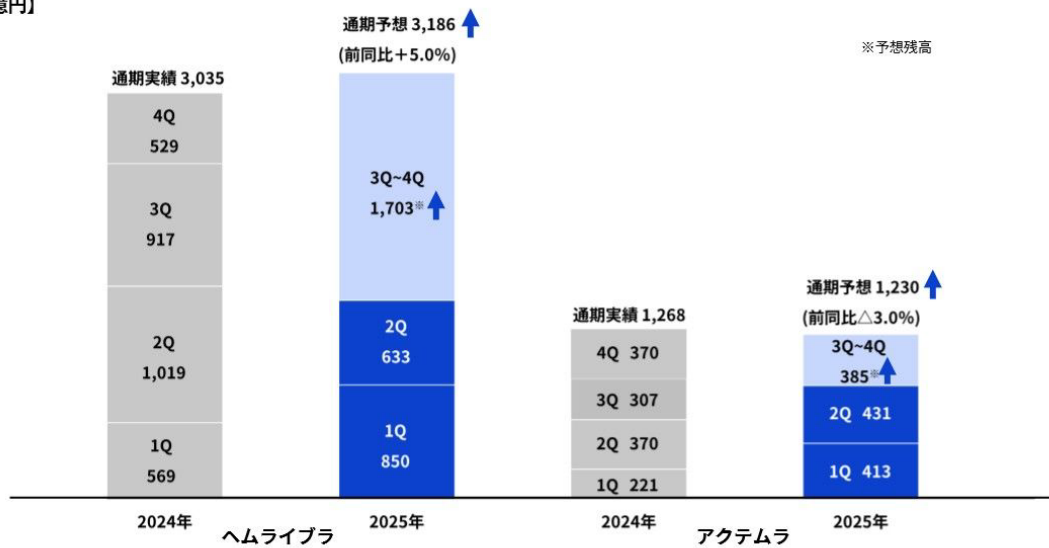
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ヘムライブラおよびアクテムラ ロシュ向け輸出



【億円】



34

こちらで主力製品でありますヘムライブラとアクテムラのロシュ向け輸出、海外売上の今年通期での見通しについてお話をさせていただきたいと思います。

まずヘムライブラでございます。

第2四半期は、6月下旬に売上計上を予定しておりました約380億円相当の出荷分が、納品手続きの遅延から、売上計上が7月になっております。期ずれということでございます。過去にもございましたが、今回第2四半期もございましたので、あえてここはご説明をさせていただきます。

一方で、ヘムライブラの全世界での売上は順調に進捗しており、現時点の出荷スケジュールから判断し、期初にお示しした通期予想売上3,186億円を、現状100億円以上上回ることを想定しております。

アクテムラもバイオシミラーの浸透が引き続き想定よりも遅延をしております。これも現状の出荷トレンド、非常にこれ在庫も強い状況でございますので、在庫のニーズも強い状況でございますので、現状の出荷トレンドから、こちら通期予想売上高1,230億円を、こちら100億円以上上回ることを見込んでおります。

サポート

日本

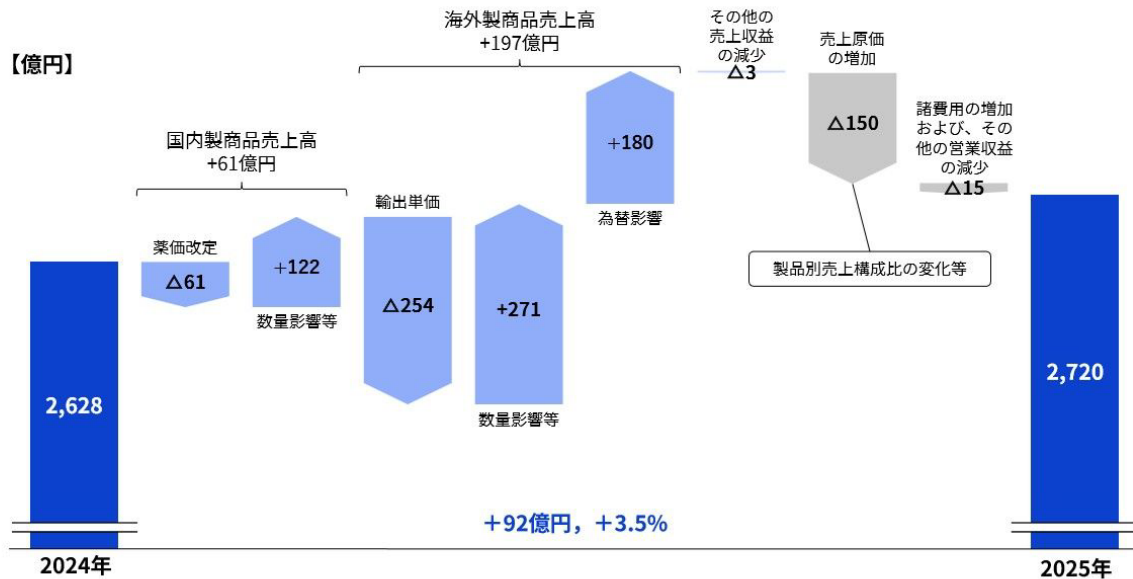
050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益 1-6月 増減



35

次に、営業利益の増加の内訳をお示したいと思います。

これは去年が 2,628 億円で、今回 92 億円増加をしている内容でございます。まず左側から、国内の売上です。こちら記載しております通り、薬価改定の影響を凌駕する形で販売数量が増加をしており、差し引きプラス 61 億円が営業利益の増加要因になっているということでございます。

海外売上についても、輸出単価自体は減少しております。これは新興国での売上が、ヘムライブラなんかはかなり伸びています。こういった要因がございますが、それを上回る形で数量のボリュームの増加が発生しております。さらにこれに為替のプラス影響が加わり、こちらも差し引きプラス 197 億円の営業利益の増加要因となっております。

その他の売上収益 3 億円、わずかながらマイナスでございます。

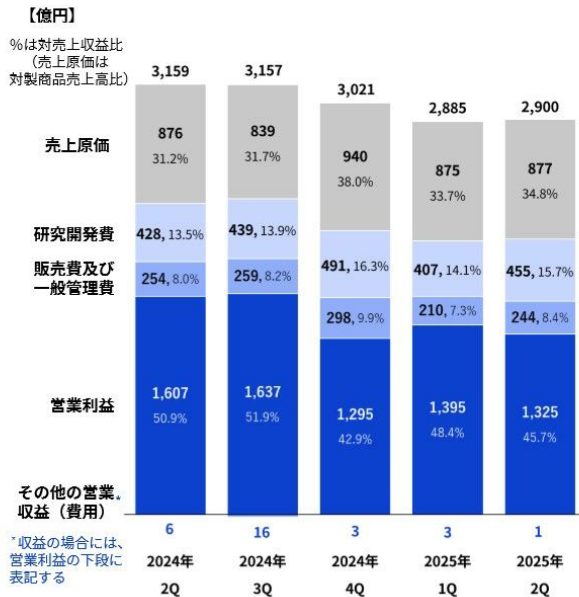
これに原価の問題が入ってきます。原価は、先ほど申し上げたように、製品売上自体が増加しております。これにある程度伴う形で、金額ベースで 150 億円増加をしております。

こういったものが通算され、全体で 92 億円の営業利益増加となっているということでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

損益の構成 四半期推移



■前年同四半期(2024年2Q)比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇
研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの
進展等に伴い増加
販売費及び一般管理費は諸経費等が減少
その他の営業収益(費用)は前年同四半期並み
営業利益 △282億円, △17.5%

■前四半期(2025年1Q)比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により上昇
研究開発費は創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの
進展等に伴い増加
販売費及び一般管理費は営業諸活動が増加
その他の営業収益(費用)は前四半期並み
営業利益 △70億円, △5.0%

36

続きまして、四半期単位での損益の項目ごとの推移を示しています。これは完全に3カ月単位の四半期の数字を並べております。

当社の場合、輸出のタイミングにより、売上認識の期ずれ等が起こることはございます。こういったことから、四半期短期では若干でこぼこする傾向がございます。

第2四半期単体での比較という意味では、去年の第2四半期は非常に、これ第1四半期の反動で、ヘムライブラが非常に第2四半期大きく出ました。これとの変動で、営業利益が第2四半期単位での比較では、この第2四半期のみでは減少していることになっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

売上収益の構成 四半期推移

【億円】

%は売上収益
に占める割合



■前年同四半期（2024年2Q）比

- 国内は新製品や主力品の好調な推移により増加
- 海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが減少
- その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

■前四半期（2025年1Q）比

- 国内は新製品や主力品の好調な推移により増加
- 海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが減少
- その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

37

こちらは売上の構成要素のそれぞれの四半期単位、こちらもしングルクォーターベースでの推移です。

こちら国内を見ますと、去年と比べ 64 億円増加をしておりますが、先ほどお伝えした通り、輸出の期ずれの影響で、海外の売上高については減少していることが確認できると思います。

損益 1-6月 予想比

【億円】	実績 2025年 1-6月	期初予想 2025年 1-12月	進捗率	2024年 進捗率*
売上収益	5,785	11,900	48.6%	47.2%
製商品売上高	5,114	10,180	50.2%	48.7%
国内	2,233	4,625	48.3%	47.1%
海外	2,881	5,555	51.9%	50.0%
その他の売上収益	670	1,720	39.0%	39.0%
売上原価	△ 1,752	△ 3,410	51.4%	47.4%
製商品原価率	34.3%	33.5%	-	-
研究開発費	△ 863	△ 1,780	48.5%	47.5%
販売費及び一般管理費	△ 454	△ 1,010	45.0%	45.6%
その他の営業収益（費用）	4	-	-	29.6%
営業利益	2,720	5,700	47.7%	47.3%
営業利益率	47.0%	47.9%	-	-
当期（中間）利益	1,935	4,100	47.2%	47.7%
EPS（円）	117.57	250.00	47.0%	47.7%

*2024年通期実績に対する2024年 1-6月実績の進捗率

- 国内
主力品や新製品の好調な進捗
- 海外
ヘムライブラの出荷タイミングが一部6月から7月に後ろ倒しとなった影響がある一方で、アクテムラのロシュ向け輸出が想定に比べ好調な進捗
- その他の売上収益
概ね想定通りの進捗
- 売上原価
1-6月の製商品売上原価率としては概ね想定通り
- 研究開発費
概ね想定通りの進捗
- 販売費及び一般管理費
概ね想定通りの進捗

38

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

こちらは第2四半期時点での実績が、期初、今年の1月に発表した通期の業績見通しに対して、どれだけ進捗をしているかという、進捗状況についてお示しをしているわけでございます。

いずれも去年の24年の進捗率を比べると、売上も、これ費用も、営業利益も、プラスが出ておりまして、こういった状況から、通期予想に対しての進捗状況としては、今年は極めて順調に進捗しているものというふうに理解をしているところでございます。

2025年第2四半期(中間期)連結決算(Core)概要

製商品売上高 1-6月 予想比



【億円】	実績	期初予想		2024年
	2025年 1-6月	2025年 1-12月	進捗率	進捗率*
製商品売上高	5,114	10,180	50.2%	48.7%
国内	2,233	4,625	48.3%	47.1%
オンコロジー領域	1,166	2,392	48.7%	48.0%
テセントリク	299	620	48.2%	47.6%
ポライビー	170	358	47.5%	46.0%
アレセンサ	158	340	46.5%	48.1%
フェスゴ	154	316	48.7%	36.6%
アバスチン	130	255	51.0%	51.5%
カドサイラ	78	166	47.0%	47.0%
パージェタ	63	119	52.9%	56.5%
ルンスミオ	10	37	27.0%	-
ハーセプチン	7	14	50.0%	58.3%
Foundation Medicine	39	71	54.9%	47.4%
その他	60	96	62.5%	53.4%

*2024年通期実績に対する2024年1-6月実績の進捗率

【億円】	実績	期初予想		2024年
	2025年 1-6月	2025年 1-12月	進捗率	進捗率*
スペシャリティ領域	1,067	2,233	47.8%	46.1%
ヘムライブラ	291	594	49.0%	46.4%
アクテムラ	238	500	47.6%	46.7%
エンスプリング	133	260	51.2%	47.0%
バビースモ	120	235	51.1%	42.3%
エブリスディ	79	159	49.7%	47.2%
セルセプト	42	58	72.4%	45.6%
ミルセラ	24	50	48.0%	49.2%
ピアスカイ	30	44	68.2%	15.4%
その他	111	332	33.4%	47.7%
海外	2,881	5,555	51.9%	50.0%
ヘムライブラ	1,507	3,242	46.5%	52.2%
アクテムラ	869	1,276	68.1%	46.7%
アレセンサ	291	670	43.4%	48.6%
エンスプリング	61	126	48.4%	37.0%
シグマート	45	78	57.7%	52.5%
ノイトロジン	46	65	70.8%	53.5%
その他	63	98	64.3%	43.6%

39

続きまして、各セグメントおよび各製品ごとの進捗率、期初予想に対しての現時点での売上高の進捗率でございます。

こちらですが、記載している通りでございます。でこぼこございますけども、セグメントで見ると、国内のオンコロジー、国内のスペシャリティ、海外、それぞれ昨年の進捗率との比較ではプラスになっております。そういうことで、順調な進捗がこちらでも確認できるかと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



為替影響額 1-6月



	対2024年 実績レート 【C】 vs. 【A】	対2025年 想定レート 【C】 vs. 【B】		2024年 実績レート* ² 1-6月 【A】	2025年 想定レート 1-6月 【B】	2025年 実績レート* ² 1-6月 【C】	2025年 期中市場 平均レート* ³ 1-6月	2025年 想定レート 通期
売上収益	+233億円	△8億円	1CHF	160.90円	171.36円	171.31円	172.12円	171.00円
製商品売上高	+180億円	△1億円						
その他の売上収益	+53億円	△6億円	1EUR	164.63円	160.00円	162.19円	162.03円	160.00円
売上原価	△14億円	+0億円	1USD	135.45円	146.13円	146.56円	148.57円	148.00円
上記以外* ¹	+1億円	+4億円						
営業利益	+220億円	△3億円						

*¹ 研究開発費、販売費及び一般管理費、その他の営業収益（費用）の合計*² 営業利益までの科目に含まれる外貨建取引に使用した計上レートを加重平均したもの*³ 決算期間中の市場為替レートを平均したもの

40

続きまして、為替の影響でございます。

昨年の実績レートとの比較という、一番この左側のコラムが重要かと思いますが、売上で 233 億円、営業利益で 220 億円、これプラスの影響になっております。これは昨年と比較して、最も大きい取引通貨であるスイスフランを中心に円安が進んだ結果でございます。

スイスフランで見ると、損益計上のベースとなる実績レートが、去年は 160 円 90 銭でしたが、これが 171 円 31 銭と、10 円以上の円安となっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



財政状態6月末 前期末比

【億円】

資産合計	22,084	+699	22,783
負債合計	△3,069	+137	△2,932
	19,015	純資産合計 +836	19,851
純営業資産 (NOA) ^{*1}	4,487	純運転資本 △70	4,417
9,476	4,989	長期 純営業資産 +510	5,499
	9,963	ネット現金 +313	10,276
	△425	+85 その他の 営業外純資産 ^{*2}	△340
株主持分比率	2024年 12月末 86.1%	+1.0pts	2025年 6月末 87.1%

- 純運転資本の減少
設備未払金が減少の一方、営業債務等が増加
- 長期営業資産の増加
以下への投資を主因として有形固定資産が増加
✓ 宇都宮工場におけるバイオ原薬製造棟(UT3)
✓ 宇都宮工場における注射剤棟 (UTA)
- ネット現金の増加
次ページ参照
- その他の営業外純資産の増加
主に未払法人所得税が減少

^{*1} NOA : Net Operating Assets^{*2} 例：繰延税金資産、未払法人所得税等

41

次のページ、財政状況、バランスシートの状況でございます。

まず総資産、こちら 2 兆 2,783 億円と、現預金の積み上がり、工場設備等有形固定資産の増加を反映し、昨年から 699 億円の増加となりました。

純資産は、利益の積み上がり、これが自己資本に積み上がってまいります。こういったことを反映し、836 億円の増加となり、1 兆 9,851 億円となっております。

この結果、株主持分比率が 87.1%となっております。

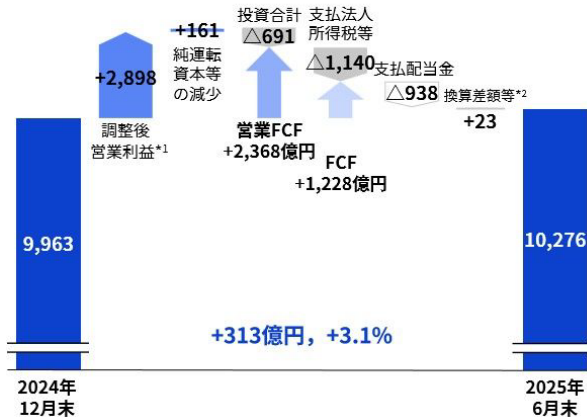
ちなみにネット現金でございますが、24 年 12 月末から 313 億円増加し、1 兆 276 億円となっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ネット現金 前期末からの増減

【億円】



*1 Non-Core含む (IFRS実額)

*2 「換算差額等」 = 「自己株式の減少 (増加)」 + 「ネット現金の換算差額 (*3) 等」

*3 在外子会社の財務諸表の換算レート (ネット現金: 期末日レート / FCF: 期中平均レート) の違いから発生 (IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)

■ 調整後営業利益 ^{*1}	+2,898 億円
営業利益 ^{*1}	+2,733 億円
減価償却費、償却費および減損損失 ^{*1}	+161 億円
■ 純運転資本等の減少	+161 億円
■ 投資合計	△691 億円
有形固定資産の取得による支出	△489 億円
リース負債の支払いによる支出	△40 億円
無形資産の取得による支出	△162 億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+2,368 億円
■ 支払法人所得税等	△1,140 億円
支払法人所得税	△1,072 億円
フリー・キャッシュ・フロー	+1,228 億円
■ 支払配当金	△938 億円
■ 換算差額等 ^{*2}	+23 億円

42

次のページ、ネット現金、今申し上げたお話を要素分解したところがございます。

去年から 313 億円増えているということですが、営業利益によるキャッシュ・イン、そこから純運転資本の減少による増加、さらに設備投資の投資による減少を差し引いた、まず営業フリー・キャッシュ・フローが 2,368 億円でございます、ここから法人所得税と配当金を引いて、この 6 カ月間で 313 億円の現金の増加となったということがございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

主な投資等の現状と当面の計画



								投資予定額		期間*
								総額	既投資額	
製造系	宇都宮工場	UT3：中後期治験/初期商用バイオ原薬製造						374億円	299億円	2023年 2026年
	宇都宮工場	UTA：初期商用生産向け無菌注射剤製造						190億円	153億円	2023年 2025年
	浮間工場	UK3（改造工事）：バイオ原薬製造						203億円	57億円	2024年 2027年
研究開発系	CPR	研究機能拡充に伴う施設移転						60百万SGD	15百万SGD	2024年 2026年
	IFReC	IFReCへの包括連携契約に基づく資金提供						100億円	83億円	2017年 2027年
	浮間事業所	UKX：低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能強化						800億円	8億円	2026年 2028年
環境	環境投資**	中期環境目標2030達成に向けた設備更新等						1,359億円 (試算総額)	55億円	2022年 2032年

*設備投資は着手年から完成予定年を表す

**表内に記載されている投資案件の一部を含む

43

毎回このスライドをお示ししておりますが、現時点において、社内で承認されている当面の設備投資の計画でございます。

本日発表した浮間事業所での新たな設備投資のプロジェクト 800 億円、こちらも新たにこちらに追加させていただいております。

損益 1-6月 Non-Core調整



【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
		無形資産	その他	
売上収益	5,785			5,785
製商品売上高	5,114			5,114
その他の売上収益	670			670
売上原価	△ 1,759	+6	+1	△ 1,752
研究開発費	△ 866	+2	+1	△ 863
販売費及び一般管理費	△ 516		+63	△ 454
その他の営業収益（費用）	90		△ 86	4
営業利益	2,733	+8	△ 21	2,720
金融収支等	△ 15			△ 15
法人所得税	△ 774	△ 3	+7	△ 770
中間利益	1,944	+6	△ 15	1,935
EPS（円）	118.12			117.57

Non-Core調整

営業利益影響内訳

■無形資産

償却費 +8億円

減損損失 +1億円

■その他

事業再構築費用 +63億円

資産売却益を含む事業所再編費用等 △ 84億円

44

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



次のページは、私ども、今まで Core ベースでのお話をしましたが、IFRS ベースでの実績との差異の調整がどうなっているかということでございます。

無形資産の償却費、減損、もしくは事業再構築費用ですね、ERP の入れ替えに伴うものですね、これは。あと資産売却益、これは第 1 クォーターですけれども、鎌倉の研究所の跡地を売却して、こういったものが調整項目として入っているということをお示ししております。

2025年第2四半期(中間期)連結決算(Core)概要

自社グローバル品の状況



【億円】

製品名	2025年2Q実績	前年同期比	通期予想	コメント
ヘムライブラ [®]	国内：291	+6.2%	594	・国内：引き続き国内シェアが順調に拡大し、前同比で売上増加
	輸出：1,507	△6.2%	3,242	・海外：すべての地域で現地売上が拡大。通期の輸出見通しを過達の見込み
	海外現地：2,238mCHF	+17%	-	・利便性と蓄積された臨床エビデンスにより、世界中の患者さんへ価値提供
アクテムラ [®]	国内：238	+6.3%	500	・国内：関節リウマチで引き続き新規処方獲得。他の適応も浸透が進む
	輸出：869	+41.1%	1,276	・海外：EUで現地売上が減少も、米国、Internationalは順調に推移。輸出は前同比で大幅増加
	海外現地：1,126mCHF	+3%	-	・IL-6阻害剤の先発薬として確立されたエビデンスにより患者さんへ価値提供
アレセンサ [®]	国内：158	+6.0%	340	・国内：21年以降、1次治療に競合品が参入したが、高いシェアを維持
	輸出：291	△4.6%	670	・海外：米国、Internationalで現地売上が拡大。通期の輸出見通しに変更なし
	海外現地：702mCHF	+8%	-	・進行NSCLCに加えて、早期NSCLCではFICのALK阻害剤として患者さんへ価値提供
インスプリング [®]	国内：133	+14.7%	260	・国内：24年の薬価改定 ¹⁾ が大きいものの、切り替えが順調に進み、前同比で増加
	輸出：61	+19.6%	126	・海外：すべての地域で現地売上が拡大。輸出も好調に推移
	海外現地：98mCHF	+38%	-	・ステロイド回避を望む患者さんに対して利便性の高い治療法を提供
ピアスカイ [®]	国内：30	+650.0%	44	・国内：皮下投与の利便性・滞在時間の減少等が患者さんや医療現場で評価され好調に浸透
	輸出：-	-	-	・海外：EUで市場導入が進む。世界各国での市場浸透を図っていく
	海外現地：3mCHF	-	-	・利便性の向上とC5遺伝子多型を含む患者さんに対する幅広い治療機会の提供

表中の「輸出」は、中外テリトリーの台湾現地売上を含む。「海外現地」は、ロシュによる海外現地売上上で、前年同期比の増減は、為替一定ベース
NSCLC：非小細胞肺癌、FIC：First in Class

¹⁾2024年4月 市場拡大再算定 △25.0%

【ヘムライブラ】国内血友病A患者シェア推移

2024年2Q	2024年3Q	2024年4Q	2025年1Q	2025年2Q
33.8%	34.9%	35.3%	36.2%	37.0%

45

最後のページ、自社グローバル品 5 品目です。

ピアスカイも入って 5 品目ございますが、こちらの状況ということで、ロシュ社での海外の現地売上の 6 カ月間の話もここで記載をしております。ご参考にしていただければありがたいと思います。

以上で私のご説明を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



質疑応答

橋口 [Q]：大和証券の橋口と申します。一つ目が、関税についてです。中長期的にサプライチェーンを変える可能性について、現時点でどのようなご検討をされているかということと、今の議論では、税率が少しずつ上がっていく可能性があるように理解していますけれども、将来的に高い税率が医薬品に付与されるまでに、できるだけ米国外で生産しているものを米国に送っておくというような対応をとられる可能性について、当面の対応として、そういったことを何かお考えのこと、あるいは準備をされていることがあるかについて、教えていただければと思います。

奥田 [A]：はい、橋口さん、ご質問ありがとうございます。関税に関して、サプライチェーンをどうするかというご質問でございました。

昨日、日本と米国で相互関税について合意がなされたという報道がありました。15%の関税、相互関税だということですが、これにつきましては、医薬品は対象外だと認識しております。7月の初めにトランプ大統領が、医薬品に関しては、通商拡大法 232 条に基づいて、医薬品について関税をかけるための調査をまだしておいて、200%をかけるというような報道もございました。

一方、関税をかけるまでには1年から1年半の猶予を持たせるということもありました。これは医薬品の生産の技術移転、あるいは生産拠点を米国にするのにある程度以上の時間が必要であろうという、こういう理解からだ認識しております。

それで質問の2番目ですが、こういう状況の中で、医薬品に関して関税がどの程度かけられるかということに関しては、なかなか予見できない状況だと見ております。ですので、橋口さんが言われるように、税率が少しずつ上がっていくと、そんなふうにもちょっと見えることは、今の時点ではないと見ています。

一方で、昨晚の石破首相のコメントにありましたように、仮に将来、関税が課される際にも、我が国が他国に劣るような、劣後するような扱いとはならないというコメントもされています。これが現在わかっている状況でございまして、まだまだ予断を許さない状況というのは、医薬品に関する関税に関してのわれわれの認識でございます。

そして質問の一つ目ですが、米国に生産拠点を移す、あるいは技術移管をするというようなことを考えているかというご質問でしたが、これにつきましては、いろいろな様々なオプションを検討しているところでございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

橋口 [Q]：二つ目のほうは、検討はされてらっしゃらないということですか。一つ目の質問、サプライチェーンを動かすことについては検討されているというご回答だったんですけど。ひとまず増産して、ものを動かしておくということについては、今現時点では予見できないというのはよくわかったんですけど、将来的に大きな関税がかかってしまうリスクを抑えるために、今のうちに増産しておくことはあまり考えていらっしゃらないということですね。

奥田 [A]：特定のオプションについてコメントする立場にございませんが、いろんなオプションを検討中であるのご理解ください。

橋口 [Q]：ありがとうございます。2点目が、ヘムライブラの利便性改善に向けた取り組みの状況についてです。ISTHで、ノボノルディスクがMim8のデバイスについて、臨床試験に参加された患者さんが、ヘムライブラよりも使いやすい、高い評価をされているというようなデータを発表されていたかと思います。

これについて、御社としてどう見てらっしゃるのかということと、現状の製剤利便性改善に向けた取り組みの状況についてご説明いただけないでしょうか。

奥田 [M]：はい、ヘムライブラの利便性向上に向けた開発の状況と、それからMim8の情報を踏まえて、どう中外として捉えているかという質問でございました。これについては草野のほうから回答してもらってもよろしいですか。

草野 [A]：橋口さん、質問ありがとうございます。現在、ヘムライブラに関しましては、AIの開発を鋭意進めている段階でございます。時期に関しましては、なかなかいつということをはっきりと申し上げられないんですが、近い1年、2年、または2年後ぐらいまでには何とかできるのではないかと考えてございます。

また併せて、NXT007におきましても、当然簡便な投与ができるようなデバイスも開発してございますので、十分Mim8には戦っていけるヘムライブラとNXT007を出していけるのではないかと感じております。

橋口 [M]：ありがとうございます。

若尾 [Q]：JP モルガンの若尾です。よろしくお願いします。

一つ目は、34枚目のスライドについてですけど、ヘムライブラの輸出売上に関して教えていただきたいです。ロシュの今日の決算を見ても非常に好調だったと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

一方で、このセカンドクォーターの数字が低くてびっくりしたんですが、IRの方に確認したら、割と大きな金額が7月にずれたということをお伺いしました。このずれた金額、割と大きいと思うのですが、その金額と、それが6月中に入っていたならば、下期はどうなっていたのか。今回遅れたことによって下期どうになってしまうのか、教えていただけますか。

谷口 [A] : 第2クォーター、6月に約380億円ぐらい、元々計上していたものが6月以降、7月、第3クォーターにずれるということでございます。それがじゃあ第2クォーターに入った場合に、じゃあ残り6カ月どうなったかという、それも踏まえても、残りの半年間は、さっき口頭で申し上げたように、通期見通しに対して100億円以上プラスが出そうだという、そういうことを申し上げました。

ということで、380億円、今ここでお示ししている数字から差し引いていただいて、そこに対してさらにプラスが出るということでご理解いただければと。

若尾 [Q] : これは元々の6月に380億円入ったならば、下期ずれないときよりも、アップサイドが大きかったと考えていいんですか。

谷口 [A] : いや、それはないですね、通期での3,186億円に対して、どちらのケースでもそれは変わらず100億円ぐらいプラス、100億円以上プラスが出るという、そんな今見通し。

若尾 [Q] : わかりました。じゃあ結局ずれた分が、下期にアドオンするような形ということでよろしいんですね。

谷口 [A] : はい、そうです。

若尾 [Q] : わかりました。そもそもこの遅れるのは何で遅れるんですか。末端売上がそれなりに強いので、やはりきちんと需要に追いついていかないといけないと思うんですけど、なぜ遅れてしまったんですか。

谷口 [A] : これ期ずれって、過去にも何回か起きておりますけれども、どうしてもこれ、国際会計基準での売上認識というのは、出荷しただけではなくて、それが完全に納品されて、リスクが移転されないといけないんですね。そのためには非常に複雑なプロセス、書類のプロセスとかがあって、これクロスボーダーで通関も入りますし、あと品質検査が全部終わって、ドキュメンテーションが終わるとか、そういったプロセス、これがどうしても人の手当てとかいろんな要因によって遅延をすることというのがあるんですね。今回もそういった一環だにご理解いただければと思います。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

若尾 [Q]：わかりました。ちなみにこの 100 億円以上の上振れというのは、末端が強いので上振れると考えればよろしいですかね。

谷口 [A]：それは全般的にはそうですね、やっぱり末端の強さも含めて、在庫に対してのニーズが強いということ。

若尾 [Q]：それは関税対策で在庫を積み増しているとか、そういうことはないですね。

谷口 [A]：そういうことではないですね。

若尾 [Q]：はい、よくわかりました。ありがとうございます。

二つ目が、LUNA18 について、教えていただきたいです。LUNA18 が結局ダメになった理由というのをもう少しクリアに教えていただきたいです。多分、pan-RAS にしたことによって、安全性と有効性のバランスが取れなかったんだらうなというふうに思うんですけども、それをクリアにしていきたいのと。

そして次のこの AUBE というやつは、LUNA18 よりは良さそうだというのはわかったんですが、今開発中の KRAS 阻害剤であったりと比べると、どういうプロファイルが期待できそうなのか、教えていただけませんか。

草野 [A]：若尾さん、質問ありがとうございます。まず LUNA18 に関しましてのネガティブな部分でございますが、ご指摘の通りでございます。pan-RAS 阻害剤の LUNA18 でございますが、KRAS だけではなくて、NRAS、HRAS、すべての RAS を阻害するということから、幅広いがん種で効果が期待できる一方、やはり全ての RAS を阻害するために、十分な治療域、安全性の幅というところを果たして本当に取得できるかというのが課題でございました。

ただ、併せて、現在競合品の状況を見てみますと、おそらく競合品が有望な臨床試験の成績を出してきてますので、今現在で得られている臨床試験の成績からは、そういった競合品と比較して、十分な治療域が確保できないという懸念が出てきたといったところでございます。すなわち差別化を実証するには少し困難があるかなというように評価してございます。

そこで今回ポートフォリオの再編がございまして、本日ご紹介させていただきましたように、LUNA18 よりも競争優位性を示せる可能性の高い pan-KRAS 阻害剤の AUBE00 といった開発に注力することに方針を変えてきたといったことになります。

AUBE00 でございますが、こちら実は弊社の二つ目の中分子創薬でございます。LUNA18 から果たしてどういうことが学べたのかといったところが非常に重要になってくると思います。これま

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

で LUNA18 を開発しておりますと、十分経口での吸収性が確認できたということが 1 点と、細胞内への移行が示唆されてきたということ、この二つがはっきりわかってきたと思います。

特に経口の吸収性については、LUNA18 の投与量の増加に伴って、血中の薬剤濃度の上昇をしっかりと確認してございますし、マウスの結果から想定されます人での有効薬効暴露量を上回る薬剤濃度まで人で吸収できるということをしっかりと確認できました。

併せて、細胞内への移行につきましても、いわゆる腫瘍における RAS/MAP キナーゼシグナル経路の下流にある複数の分子における mRNA の発現量、これを低下する傾向が認められておりますので、おそらくわれわれの中分子では、経口吸収性と細胞内への移行については、しっかりと示唆できた。

こういったものが AUBE00 にも継承されてまいりますので、われわれの中分子には、非常に期待ができるのではないかと考えて捉えてます。

若尾 [Q] : [音声不明瞭]であるという理解でいいんですか。

草野 [A] : はい、今の段階では、やはり臨床試験をやってみなければわからないんですけども、LUNA18 での得られた経験をもとに、しっかりとフェーズ 1 スタディでそれを検証していければというふうに思っております。

若尾 [Q] : 結局、草野さんが順調に進展していると、中分子は順調ですとおっしゃったんですが、一方で、この AUBE のフェーズ 1 の終わるタイミングを見ると、2030 年なので、5 年くらい遅れているような気がしていて、外から見ていると、非常に遅れていて、順調には見えないんですが、順調とおっしゃった意図というか、われわれが理解しきれてない部分を解説していただけますと助かります。以上です。

草野 [A] : ありがとうございます。1 個 1 個につきましては、まだ遅れてる部分もあるかもしれませんが、今回二つ、前臨床と臨床前の段階のものが入ってまいりましたし、一つはがんですけど、一つはがんではない疾患の準備も整ったと。

さらには研究段階に 25 個入ってございますので、なかなか臨床段階に行くものをご紹介できないんですけども、十分研究段階では多くの中分子製剤が控えているといったところから順調に進んでいるのではないかと評価をしてございます。

若尾 [Q] : 時間はかかっているけど、質と量は増えましたと理解すればよろしいですかね。

草野 [M] : ありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

若尾 [M]：ありがとうございました。

横山 [Q]：日経 BP の横山と申します。TALENTACE についてお伺いしたいです。

今回このデータを持って申請するということなのですが、主要評価項目の一つである TACE PFS は確かにメットはしています。だけど 18 カ月あたりから、カプランがほとんど重なっているという点、あと OS について有意差がついていない、現時点では immature という言い方も十分あると思うんですが、ただ、ハザードは 0.96 と、LEAP と比べても悪い。この状況で、果たして、レンペム対して、本当にいけるのか、どのように考えてらっしゃるのか、それをお伺いさせていただきます。

草野 [A]：横山さん、TALENTACE の質問ありがとうございます。ご指摘の通り、まず TACE での PFS に関しましては、メットしておりますけれども、OS ではメットしていないということで、現時点での申請は一回控えてございます。

もう 1 回目の解析結果を見て、OS が非常に良い結果であるならば申請に進もうというふうに現在は計画してございます。

横山 [Q]：わかりました。あと inavolisib についてもお伺いしたんですが、ようやく始まったなと、ちょっともっと早く始まってのかなと思ってがっかりしたところはあるんですが。INAVO120 でもう証明されたデータで、我が国でもできるだけ早く利用できるようなといいなと思っているんですが、この申請の予定表の中にもないし、一体これ御社としては、いつ頃申請されることを考えていらっしゃるでしょうか。

草野 [A]：inavolisib の質問ありがとうございます。inavolisib に関しましても、現在フェーズ 1/2 スタディをまさに開始し、大急ぎで臨床試験を促進しているところでございます。既にご指摘の通り、海外で承認を得てございますし、ヨーロッパでも先日ご承認をいただいたと。さらに先日の ASCO で OS のデータも出てきたということで、1 日でも早くこの薬剤を日本の患者さんに届けるよう、フェーズ 1/2 スタディをしっかりと終了し、得られていますフェーズ 3 とブリッジングをして申請にこぎつけたいと思ってございます。

最善を尽くして、最速で試験をやっている所存でございます。

横山 [Q]：来年に何とかかなりそうなんですか。

草野 [A]：すみません、時期に関しましてはまだ公表できないところでございますけれども、最速でやっています。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

横山 [M]：わかりました。どうもありがとうございました。

植田 [Q]：ゴールドマン・サックス証券の植田でございます。私から、まず最初、LUNA18 と、それから AUBE00 のところについて教えていただきたいです。

LUNA18 の今回、臨床試験、比較的慎重に進められていたのかなというような印象を持っておりまして、安全性も含めてですね、今回初めての中分子ということで、慎重に進められてたのかなと思うんですけれども。このあたりで特にこれまでのところ、安全性とか、中分子のプラットフォーム全体に対して、何か懸念があるような話はないのかというところの確認と。

併せて、AUBE に関しては、もう少し速やかに結果が得られる可能性があるのか。ちょっと ClinicalTrials 上は 2030 年となっているようなんですけれども、このあたり、もう少しスムーズに進められる可能性があるのかということについても教えていただけますでしょうか。

草野 [A]：はい、植田さん、質問ありがとうございます。まず LUNA18 でございますが、先ほど来より申し上げますように、安全域に関しましては、懸念している部分がございましたので、これまで何度かご説明申し上げましたように、フェーズ 1 試験におきまして、最大耐量の評価、または用量制限毒性等の確認を本当に慎重に実施してまいりました。そのため若干時間はかかったかと思えます。

結果でございますけれども、詳細な結果は、追って論文、あるいは学会等で発表させていただきたいと思いますが、副作用を見てみますと、やはりこれまでと同様な RAS/MAP キナーゼを阻害することによって出るような副作用、いわゆる皮膚症状だとか消化器症状でございますので、疾患や効果、薬剤 effective な副作用が出ているんだろうなとは思っております。

また中分子特有の副作用等は特に出てございませんので、そこら辺の安全性に関してはあまり問題としては、今のところ、上がってございません。詳細なデータは、学会・論文等で発表させていただきたいと思っております。

AUBE に関してでございますが、やはりわれわれも LUNA からかなり多くのものを学んでございますので、またほかの多くのフェーズ 1 の試験、抗がん剤で行ってございますので、いろいろな試験のやり方を模索してございます。今まで以上、LUNA18 以上に早く臨床試験が進むように全力を尽くしてまいりたいと思っております。

植田 [Q]：ありがとうございます。2 点目が、米国の関税に対する対応のところで、ちょっと定性的なところですがお伺いしたいのですが。御社がロシュグループにあるということで、生産拠点の

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

見直しですとか、サプライチェーンの見直しというところで、何かメリットといいますか、よりフレキシブルに対応できるというような側面がありましたらご紹介いただけますでしょうか。

奥田 [A]：はい、ご質問ありがとうございます。ご存知かもしれませんが、ロシュグループとしてアメリカ国内には、製造設備、製造拠点が複数以上ありますので、そういうものを中外グループがメンバーとして活用していくオプションというのは当然ながらございます。

先ほども回答しましたが、いろんなオプションがありますので、それら含めて、オプションをいろんな角度から検討の俎上に乗せているところでございます。

植田 [M]：承知いたしました。ありがとうございます。私から以上でございます。

酒井 [Q]：UBS の酒井です。すみません、ROSE12 ですか、非常に難しいメカニズムなので、ぜひ教えていただきたいんですけれども。元々今、T-reg というのは、変なブームと言いますか、結構注力度が高まってきていると思うんですが、一方で、この難しさというのも、いろいろなところで報告されてきているのではないのかなと。

ここでの特徴というのは、御社のスイッチ抗体技術を使うことによって、スイッチオンとスイッチオフを明確にできる。それによって T-reg を増やさずに免疫作用を強めていく。そこにテセントリクを使ってますけれども、CTLA-4 も使って、ダブルで攻撃するというような、そんなような単純な、ちょっとアマチュアの質問で恐縮なんですけど、そういう理解でよろしいんですか。

草野 [A]：酒井さん、ROSE12 の質問ありがとうございます。T-reg、今回スイッチ抗体というのは、腫瘍に多く存在する ATP、アデノシン三リン酸があるか、ないかというところで、抗体がくっ付くか、くっ付かないかといったところになりますので、T-reg が多く出てくる、少なく出てくるというよりは、この ROSE12 が T-reg にくっ付く確率が高くなるか、低くなるかという形になってまいります。

ATP の多い腫瘍組織のところでは、非常に T-reg をキャッチできる可能性が高くなりますし、正常細胞のところでは、ROSE12 が働かないというようなメカニズムで効果が発揮され、安全性を保ちながら、高い用量まで投与ができるというようなデザインをされた薬となってございます。

酒井 [Q]：そうしますと、がん種は固形がんということですが、当然 T-reg の発生云々というところが問題になってくると思うんですけれども。

草野 [A]：おっしゃる通りでございます。

酒井 [Q]：大体その辺を狙っていくというお考えですか。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

草野 [A]：はい、さようございます。

酒井 [Q]：わかりました。この 30 倍の効果というのは、これはマウスでの実証なんですね。

草野 [A]：はい。

酒井 [Q]：わかりました、ありがとうございます。それから、すみません、今回のこの R&D、開発プロジェクト、六つドロップされたんですかね。

草野 [A]：五つです。

酒井 [Q]：最近、御社、長く拝見させていただいて、これだけ一気にドロップされたのは初めてじゃないかと思うんですけれども、その背景には何があるのか。社長がおっしゃったように、確かに充実してきていると、アーリーのパイプラインがですね、それだけに起因するのか。それとも研究開発の方向性として、何か大きく変えていこうという、その意思があるのかどうか。その辺についても何かお考えがあったとしたら、ちょっと教えていただけますか。

奥田 [A]：酒井さん、質問ありがとうございます。ご指摘のように、このように一括してプロジェクトを中止するということは、私が知る限り、中外の歴史の中では初めてでございます。これ、TOP I 2030 を 2021 年に開始して、その中核的な戦略コンセプトが RED SHIFT です。RED 機能を強化して、R&D のプロジェクト数を増やし、最終的には、年 1 個のグローバル製品をローンチしていこうと、こういう戦略でございます。

その中で、かなり数多くのプロジェクトが生まれ、それが pre-clinical フェーズ、そして臨床のフェーズに入ってきました。これまで皆さんからもご指摘されたこともありますし、社内でも当然ながら意識しておったんですが、プロジェクトによっては、かなり丁寧に開発を進め、とことんデータを取っていこうという追求する姿勢も重要なので、それを大切にしてきました。その結果、プロジェクトによっては、時間が想定以上にかかり過ぎるというものもありました。

それを解消するために、以前から説明差し上げておりますように、プロジェクトごとに、Go decision、No-Go decision のクライテリアをしっかりと設定して、そのマイルストーンに来たら、そのデータをもとに、そしてその競合状況のデータを、その時点ですでね、もとに進むのか、進まないのかを決めていこうと、こういう戦略をとっておりました。

一方、プロジェクトの数が増えてきていて、じゃあそのプロジェクトを全て開発を全力で進めることができるリソースが全部あるかということ、そうでもないということで。ここは Go/No-Go decision のマイルストーンに来る前ではあるんですが、今見られている非臨床、臨床のデータ、特に

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

有効性、安全性、競争優位性、薬物動態含めて、データを見て、プロジェクトを並べて、優先順位をつけて、そこから五つ、どっちかというところのほうですね、優先順位の低いものから五つを一括で中止するという経営判断に至ったということです。

酒井 [Q]：それによって研究者の方、かなり喝が入ったという面はありますか。

奥田 [A]：はい、喝が入ったという言い方が適切かどうかはちょっとわかりませんが、いずれにしても、この優先順位をつけるに当たっても、われわれの研究者がサイエンスをベースに開発を進めておりますので、そこは大切に、データをもとにして、この時点ではこういうふうな競争優位性、あるいは有効性、安全性等が想定されるよねということの理解をベースに優先順位をつけておりますので、喝が入ったというよりは、十分理解がされているものだと思います。

これをやることによって、そうすると、残っているのがより有望なプロジェクトでありまして、そのプロジェクトに対して開発を加速することもできますし、その加速するのはリソースを余計にかけるですとか、お金をかけることによって、開発を加速できるようなデザインができたり、いろいろな可能性が出てきますので、そういうことを狙って、今回の一括中止判断、経営判断となりました。

酒井 [M]：はい、ありがとうございます。

坂野 [Q]：日本経済新聞の坂野と申します。本日はありがとうございます。研究棟の新設について伺いたいです。

奥田 [A]：UKX ですね。

坂野 [Q]：そうです。800 億円の投資というのはかなり大きい数字なのかなというふうに思うんですけども、中分子とか抗体とかのモダリティの製造方法を包括的に研究しようと思うと、これくらいの規模感の投資になるのかという、そういう背景的なところと、あと開発を加速するというところをおっしゃられているんですけども、改めてこれを新設することで、どういう変化が期待されるのかというところを教えてください。

奥田 [A]：はい、UKX800 億円の投資、これが妥当なのかというようなご質問だったと理解しております。先ほども説明したように、RED SHIFT の中で、プロジェクトの数が増えてきています。われわれ、抗体医薬、それから中分子、低分子にフォーカスをしています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

開発が進んでいきますと、治験薬を適切に適時作らないといけません。これに関しましては、われわれが開発している化合物の複雑性もありまして、より早く注力しながら、生産方法、生産技術の確立をしないといけないという、こういうチャレンジに突き当たっていました。

もちろん抗体のほう、中分子のほうですね、数が増えてきているので、スペースが必要、要員も必要ということになってきていて、既存の設備、施設では十分賄えないということで、この UKX という、この規模の大きさの生産技術を開発するための研究棟というのを作ることにしました。

じゃあ 800 億円が妥当なのかって、かなり大きな数字です。これはわれわれ、もちろんコンペをして、価格の比較をして、より合理的な費用のところを選んで建設をお願いすることにしています。それから海外の似たような設備で、どのくらい建設費がかかるのかということも比較した上で、この数字がそれほど大きく外れてないという確認もしてございます。

一方、昨今のインフレ、物価高騰、人件費の高騰によって、この建設費が、数年前と比べるとかなり上がったというのは事実でございます。見積もりを取ってから、数年前に見積もりを取って進めている中でも、直近で再見積もりを取ると、ものすごい上がっているというような現実があります。ですが、じゃあここの価格が、費用が高いからといって、これを作らないという経営判断ができるかというと、われわれの TOP12030 の目標の達成のためには必須の機能であるということで、この経営判断をしたわけです。

谷口 [A] : 補足させていただきますと、実は浮間の今の工場の敷地にいくつかの建屋があるんですね。それを今回、老朽化等もあり、集約する。それによって大きいものを作って、コミュニケーションも活発にして、効率性を上げていくという、そんな側面もございますので、ご理解いただければ。

奥田 [A] : もう一つ言い忘れましたが、今回の UKX の研究施設は、環境に配慮した設備になっております。フロンをできるだけ使いたくない、フロンゼロや、CO₂ 排出ゼロに貢献する、そういうような設備を整えて、環境に配慮した設備を整えていることもございます。その部分、費用、コストが上がっている部分もあるということをご理解ください。

村岡 [Q] : モルガン・スタンレー、村岡です。一つ目の質問ですけど、ちょっと業績の輸出で、アクテムラとヘムライブラが、都合、通期では 100 億円ずつ、合計 200 億円上振れそうだというお話だったと思うんですが。さらになんですけれども、今日の Galderma の数字を見てると、無茶苦茶 NEMLUVIO がよく売れていて、この分も 100 億円追加とは言いませんが、まあまあ上振れ要素になるんじゃないかなと。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



今いっぱい在庫確保しなきゃいけない薬剤だと思うので、この勢いだと、結構今期にも効いてくるんじゃないかなと思ったのですが、そう考えるのはちょっと前のめりすぎでしょうか。

谷口 [A]：村岡さん、ありがとうございます。谷口でございますが、ヘムライブラ、アクテムラは100億円ではなく、100億円以上と申し上げましたので、よろしくお願いします。

Galderma 向けの出荷についても、Galderma、今の売上のペースからいくと、結構当初の想定より上がってくるのかなという印象は今のところありますが、ちょっとまだそれを具体的に定量化して、どれぐらいかというところまではまだ至っておりません。また状況がわかり次第、適宜次のクォーター等でアップデートさせていただきたいと思いますが、NEMLUVIO 自体、非常に私どもの理解としては、想定よりもいい感じに伸びているのではないかな、浸透してるのではないかなと、そんな印象を持っております。よろしいでしょうか。

村岡 [Q]：ありがとうございます。あと GYM329 なんですけれど、今日のロシュの資料を見ると、ゼップバウンドの併用フェーズ 2、GYMINDA の詳細が出ているんですが、ClinicalTrials のサイトも見てみたら、ちょっと面白かったので、こういうことって他社と違いますよねという質問なんです。

見ると、48 週のゼップバウンド併用試験なんですけど、延長の追加の 24 週は、GYM 単剤にしますみたいなことが書いてあって、つまり併用は 48 週まで、残りは GYM で様子を見ますという試験に見えるんですが。この使い方って、多分他社のマイオスタチンとは違うと思うのですが、ちょっと違うデザインを考えた背景、これで狙えるユニークな、もしくはベストインクラスのプロファイルっていうのがあるんだと思うんですが、そこちょっと狙いを教えていただければと思います。

草野 [A]：村岡さん、ご質問ありがとうございます。ご指摘の通り、GYM329 のフェーズ 2 試験でございますけれども、最初に 48 週間投与をいたします。こちらはチルゼパチドとの併用ですが、GYM329 は低用量、中用量、高用量の 3 用量で比較をしてございます。それにプラセボ群が入ると。

その次の 24 週間が、全ての群でチルゼパチドはストップ、ただ高用量のところのみ、GYM329 を続けると、24 週間続けるといったような臨床試験になってございます。

ご存知のように、インクレチン、一度投与を終わりますと、体重の増加が考えられてございますが、その後、GYM329 でフォローアップをすると、その部分が抑えることができるのかといったところが、この試験で維持療法というところで見れるのではないかなというふうに考えてございます。そういった臨床試験の形になってございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

村岡 [Q]：ありがとうございます。筋肉が増えれば、体重もリバウンドしないよということを示すと、そういうことですね。

草野 [A]：はい。

村岡 [Q]：ありがとうございます。すみません、1 個だけ手短に。実績のところの輸出で、関税の影響はなかったという理解でいいんでしょうか。つまりロシュが多めに在庫を積むという判断をしたというような影響は 4-6 月になかったということでもいいのか。もしかしたらあったのか。

谷口 [A]：私の認識をしている限りでは、それはございません。

村岡 [M]：わかりました。以上です。ありがとうございます。

山口 [Q]：ありがとうございます。シティ、山口です。中止になったプロジェクトの中に、スイッチ抗体が入っていたと思うんですけど、今回スイッチ抗体のご紹介もいただきましたが、STA551、これが中止になった理由と、あとスイッチ抗体としてのコンセプトは出ていたのかどうか、その辺について最初一言コメントいただけますでしょうか。

草野 [A]：はい、山口さん、質問ありがとうございます。まず STA551 でございますけれども、こちらの標的分子は、T 細胞の CD137 でございまして、腫瘍組織で濃度が高い ATP の存在下において、STA551 が CD137 と結合するといったようなシステムとございます。

今回でございますけれども、試験の結果に関しましては、現時点では公表できませんが、スイッチ機能を持たない CD137 抗体であれば、到達できないであろうと思われる投与量までの忍容性を確認できてございます。

したがって、スイッチ抗体の効果がある程度出ているのではないかと捉えてございます。詳細は今後、学会等にて発表する予定になってございます。

一方、ROSE12 でございますが、先ほど来よりお話しさせてございますように、制御性 T 細胞上に発現している CTLA-4 をターゲットにしてございますので、ターゲットが完全に異なっているということでございますので、今回の STA551 の中止とポートフォリオの状況を勘案した結果でございますので、スイッチ抗体技術の期待値にも、ROSE12 の開発にも影響を及ぼすものとは考えてございません。

山口 [Q]：ありがとうございます。詳細が出たということなんでしょうけれど、お話をお伺いすると、忍容性では結構上がったんだけど、有効性が、なかなかそうは言ってもクリアに出なかったというところなんですかね。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

草野 [A]：今現在、申し訳ございませんが、詳細なデータを開示することはできませんので、後ほど学会、並びに論文等でご発表させていただきたいと思っております。

山口 [Q]：ありがとうございます。もう一つ簡単に、先ほどの村岡さんも聞いておられたんですけど、NEMLUVIO のところなんですけど、これはその他の中に含まれているんですね。

谷口 [A]：ありがとうございます。海外のその他という項目がございます、その中に数字としては入っております。

山口 [Q]：これだけ見てみると、何か Q1、Q2、あんまり変化がないように見えるんですけど、現場で、Galderma の言ってることと、この数字というのは、まだうまく反映してないんですかね。それともそこそこ入っているんだけど、その他のその他もあるので見えないんですかね。

谷口 [A]：どうですかね、流れとしては、年後半のほうが多分強含んでくるのではないかなと理解をしております。

山口 [Q]：これから上がってくる余地があって、それは御社の予想よりもちょっと上にいくかもしれないというところですね。

谷口 [A]：そうですね、その可能性は相応にあるというふうに理解をしております。

山口 [M]：わかりました。はい、ありがとうございます。以上です。

レン [M]*：トニー・レンです、マッコーリーからお話をさせていただいております。いくつか質問です。

次世代のプロダクト、NXT007 に関してですけれども、投与量について教えてください。フェーズ 1/2 スタディ、第 1 相、第 2 相試験において、皆様は 4 週ごとの投与をされております。これまで、もしかしたら、より長い間隔をあけられるのではないかと。例えば 2～3 カ月に 1 回の投与でも可能ではないかというような示唆をされておりましたけれども、今回なぜよりこの 4 週間に 1 回の投与頻度を決められたのでしょうか。

この投与頻度を第 3 相でも同じように設定するのでしょうか。そして将来的に、この投与と投与の間隔を 4 週間以上あけることができるようになるのでしょうか。これ NXT007 に関する質問です。

次の質問は、遺伝子治療、エレビジスに関してです。5 月に日本で承認を取っていらっしゃると思います。これ歩行可能な患者様を対象にしたところだと思うんですけども。エレビジスですね、日本

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



でどれぐらい投与を既にされているんでしょうか、患者数として。そして歩行不可能な患者様でも、この遺伝子治療を受けてらっしゃる方というのはいらっしゃるのでしょうか。

草野 [A]：はい、草野から回答させていただきます。トニー・レンさん、質問ありがとうございます。まず NXT007 の投与間隔についてでございます。まず今後のレジюмеに関しましては、残念ながら現在回答は控えさせていただきます。

ただ半減期が非常に長いということで、投与頻度を減らせるポテンシャルは十分あると捉えてございます。また、長い半減期と申しますと、ピークとトラフの PK の差異を小さくすることに寄与しますので、こういった効果の安定性も期待できるといったところから、今後いろいろな試験で検討していきたいと考えてございます。

続きまして、エレビジスの日本での投与経験といったところでございます。現在日本では、4 歳から 7 歳で歩行可能なデュシェンヌ型筋ジストロフィーの患者を対象とした試験、臨床試験で、5 名の方に参加をいただいております。こちらは歩行可能な臨床試験に入った 5 名でございます。

もう一つ、ご指摘のありましたように、歩行不能な患者を対象とした臨床試験にも日本から参画してございます。こちらは 4 例の日本の患者さんに参加をいただいております。ただ、歩行不能な患者の臨床試験は、今のところ、盲検化が保たれておりますので、プラセボが投与されているか、実薬が投与されているかはわからないといったところになります。以上でございます。

曾木 [Q]：ありがとうございます。まず今後の US の関税に関しては、いろいろなオプションを考えられているということで、その想定の一つとしての質問です。

まず今回原価が高かった理由として、アクテムラですね、アクテムラの海外の輸出が高かったというご指摘があったかと思えますけれども、それに関して、これは US のジェネンテックの施設を使って、委託製造をアクテムラはしているというお話が以前あったと思います。これが理由なんでしょうか。

もしそうだった場合に、当然今回これからアメリカで実際に医薬品に対して関税がかかってくるときに、US に、特にヘムライブラ等の製品の製造を移す可能性があるというふうに考えられますけれども。そのときに、今のところのロシュの説明などを聞いてると、彼らはかなりマニュファクチャリングのキャパシティ的には、キャパシティは持っているというふうに理解しています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

そうすると、ロシュのあるマニファクチャリングのキャパシティに対して、御社が委託するという形をとることができるのかなと思うんですけれども。そうすると、アクテムラで見られているように、ちょっと原価が上がるということが考えられるのでしょうか。

もちろんこれ、本当にオプションのうちの一つだというふうに思いますけれども、そういう可能性があるのかちょっと教えてください。

谷口 [A]：それでは谷口よりご回答させていただきます。曾木さん、どうもありがとうございます。アクテムラの前価が相対的に高かったという話がありましたが、これは、別にさっき言ったジェネンテックのサイトの問題だけではありません、複合的な要因です。アクテムラの前体の生産に関わるコストを含めて、相対的に高い、特にその製造拠点がどこにあるかということとは必ずしも100%リンクすることではないとご理解いただければと思います。これが1点目でございます。

あと製造拠点に関しては、今奥田が申し上げたように、様々なやっぱり選択肢がこれからあり得ると思うんですね。それをまさに今いろいろと多角的に検討しているという状況でございますので、具体的に何か方向性を決めてということではございません。

これは実際の関税率がどうなるか、あとは製造コストですよね、現状の製造コストに対して、例えば人件費とか、いろんな物件費とか、そういったものが、それ以外の拠点、例えばアメリカだったらどうなのかとか、そういった要素を加味しながら総合的に判断をしていく問題で、ちょっと今の仮定においては、なかなか全てそれをお答えするのは難しい状況かなと思ったりしております。よろしいでしょうか。

曾木 [Q]：はい、ありがとうございます。次に、SAIL66 だったかと思うんですけれども、トリスペシフィックのTセルエンゲージャーのプロダクトで、今回ディスコンティニューしたものに關してです。これに關しては、実際のこのTセルエンゲージャーの、このトリスペシフィックでのTセルエンゲージャーというモダリティ自体に対する何かチャレンジがあったという理解でよろしいのでしょうか。このディスコンティニューの背景、それからこのトリスペシフィック、Tセルエンゲージャーの、今後はどういうふうな展開があるのか、教えてください。

草野 [A]：はい、SAIL66 に対する質問、ありがとうございます。まず SAIL66 でございますけれども、こちらは腫瘍にある claudin-6 を標的にしてございます。併せて、T細胞上にありますCD3、並びにCD137、両方に結合するトリプルスペシフィック抗体となつてございます。いわゆるわれわれで言う、Dual-Ig 技術といったものでございまして、腫瘍抗原にあります claudin-6 とT細胞上のCD3を介して、抗腫瘍効果を出していくと。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

またさらに T 細胞上の CD137 分子にも結合することで、疲弊した T 細胞の持続的な活性化を促して、より強い抗腫瘍効果を期待してございました。

結果に関しましては、先ほど来、申してございますように、今後の学会、並びに論文等で発表していきたいと考えてございます。

また、このトリプルスペシフィック抗体、Dual-Ig 技術でございますが、現在 ALPS12 という薬剤、こちらは小細胞肺がん、並びに神経内分泌がんなどに発現が多く見られる DLL3 をターゲットとした薬剤でございますが、こちらでも Dual-Ig 技術を用いた薬でございます。こちらの試験は現在も進行中でございますので、今後も Dual-Ig 技術に関しましては、検討を続けていきたいと考えてございます。

曾木 [M]：はい、わかりました。ありがとうございました。

お問い合わせ先



広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881
E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp
担当 : 佐藤、香西、平野、宮澤、和泉

投資家の皆様：インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554
E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp
担当 : 櫻井、島村、山田、池ヶ谷、大塚

46

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す
3. 本トランスクリプトは企業の同時通訳音源を書き起こした内容を含む
4. *は企業の同時通訳の書き起こしを示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com